



□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション(全3巻)』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『性愛論』(岩波書店)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『ゴーマニズム思想講座 正義・戦争・国家論』(以上、共著、径書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『研究開国』(共著、富士通ブックス)、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』(共著、勁草書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『三島由紀夫vs東大全共闘1969-2000』(共著、藤原書店)、『天皇の戦争責任』(共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 企業とは何か——社会学からの視点

- 1) 集団(=ある理由や目的をもった人間の集まり) ↔ 無秩序な群衆
 - 組織(=恒常的な集団で、明瞭な内部構造を持つもの) eg 階層、協業/分業、…
 - 企業(=市場のなかで、営利を目的として活動する組織) 利潤: 目的関数
- 古代や中世にも、市場のなかで営利活動をする組織はあった。しかしそれらは、同時に家族や、宗教団体や、地域社会だった。純然たる営利団体が出現するには、所有の絶対性、そして、営利の自由(是認)が必要になる。 cf Max Weberの資本主義論
- 2) 近代的企業の特徴
 - 資本主義市場の成立 ⇔ 近代的企業の成立 商品経済 → 市場経済(全面化) ~ すべて商品生産要素(資本/労働/土地)の市場 ~ 企業設立の自由 特に労働力の商品化
 - 資本市場の成立 ~ 出資(株券): 有限責任 ⇔ 所有と経営の分離(経営者のヘドハント) 新しい金融手段……預金通貨(小切手)、手形割引 ⇔ 商業銀行の成立
 - 労働市場の成立 ~ 企業(生産者)と家計(消費者)の分離 $\pi = p - w$
 - 官僚制 文書主義・職階制・予算と帳簿・業務規則・企業行為の非人格化
 - 科学技術 工学の応用、技術者の雇用 経営管理 コスト削減、企業戦略

□2□ 企業文化は、どのように社会と結びついているか

- 1) 市場と社会システム
 - T・パーソンズによれば、社会は、政治/経済/文化…が密接に絡んだシステムである。
 - 「資本主義の文化的矛盾」 ~ 社会システムの、部分システムの間に矛盾が生じうる。
 - 境界相互交換: 部分システム間の投入産出
 - 機能分析 正機能/逆機能、顕在機能/潜在機能、直接機能/間接機能、総機能/限界機能 機能要件(functional requisite) 機能評価関数
 - ⇒ 市場経済のあり方によって、社会のその他の部分は、さまざまな正負の影響を被る 社会のその他の部分のあり方によって、市場経済は、さまざまな正負の影響を被る
- 2) 企業行動と、企業文化
 - 企業行動: 組織としての企業の、行動(意思決定)……商品の売買(原料の購入、製品の販売)、雇用(労働力の購入、解雇)、金融(資金の借入、返済)、配当、経営管

理(組織としての企業内部の行動)、対社会的行動(政治献金、メセナ、寄附、外部効果(公害など)、広告、PR、NGO(経済団体を含む)、その他)

- 企業文化: 企業行動のあり方 cf 文化人類学では、文化=行動のパターン、と定義 企業文化は、ある期間、維持される(パターン: 相対的に変化しにくい)

企業文化は、ある期間を経過すると、変化しうる → その社会的影響を考察できる

3) 企業文化の、直接効果(⇒)と間接効果(→)

- 企業の採用・雇用慣行
 - ⇒ 受験競争 → 大学空洞化 □国会 □行政 □大学 □文化 □環境
 - 文化の低迷 → 政治の貧困
 - 家庭・地域社会の弱体化
- 企業の政治献金
 - ⇒ 保守の長期安定政権
 - 政治的無関心 → 国会空洞化
 - 官僚の優位 → 護送船団方式 □家庭 □地域社会 …… □国際社会
 - 総合政策力の低下
- 低配当・株式持合い ⇒ 企業成長を重視 → 過剰雇用 → 組織の活力低下
 - ベンチャーが育たない(資本の機動性低下) → 企業依存人間の増加 → 若者無気力
- 逆の効果(←、↔)もある。また企業は市場競争や慣行のなかに置かれているので、ある企業が単独で、改革を実行するには限度がある(それなりにできるとも言える)。

企業 △ △ △ …… △ 市場

□3□ 日本の企業文化は、21世紀を生き残るか

- 1) 日本の企業文化・企業慣行は、意図して(設計して)そうなったというより、気がついたらそうになっていた、というほうが実態に近い。 → 企業文化の見直し・点検
- 明治天皇制: 天皇-政府-企業・学校…-個人(臣民) 組織・個人は国家目的に邁進 中間団体(藩、村落、講……)の解体 税(地租) → 国家による資本蓄積 → 払下げ
- 日本株式会社 すべての企業は監督官庁が指導する NGOは特殊法人
 - ← 総力戦体制の遺物 統制、指導、規制、許認可(GのPに対するヘゲモニー)
- 日米構造協議……日本市場の発展が顕著だった時期、アメリカ企業から門戸開放の圧力が高まった。中国市場の将来性が重視されるようになったいま、一段落している。
- 2) 日本社会の自己改革 制度の設計性能を、十分に発揮させる
- 市場機能そのものの回復 完全競争 ~ 市場効率 起業の自由 転職の自由 ~ 労働市場投資の自由 ~ 創業者利得の保証 地代の軽減 公平税制 ~ 付加価値税+所得税
- 個人の自主性と自己責任 大学学費の自己負担(奨学ローン) ~ 世代間の公正 家単位から個人単位へ(共働きが損にならないように) 外国人に市民権を
- 企業の相対化(共同体への忠誠から職務に対する忠実へ) 時間短縮(生産性向上と雇用の確保を両立) 家族の重視 NPOへの配慮 人生再設計の自由(転職が不利にならないよう) 専門的職能を重視
- 国際社会のなかの企業 味の素ブタ酵素事件 ~ イスラム法学者に諮問しなかった不明旧制高卒のトップは、文系/理系を跨ぐ教養の厚みと、指導者としての矜持があった → 企業組織の階層は三段階ぐらいに整理、昇進をなくし公募に 上ほど競争激烈
- 社会的セフティーネットの充実 生活費(地代・賃料・食費・医療費)を安価に 機会の平等(再教育の機会を保証)
- 戦略的投資 英語の世界標準化 → 自動翻訳のビジネスチャンス拡大 急速な高齢化 → 言語応答ロボットの開発メリット増大 環境制約 → 省エネ循環産業への転換 アメリカ、中国の隙間をつく産業立国を大胆に構想しよう

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全3巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『性愛論』（岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』『ゴーマニズム思想講座 正義・戦争・国家論』（以上、共著、径書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『研究開国』（共著、富士通ブックス）、『選択・責任・連帯の教育改革【完全版】』（共著、勁草書房）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『三島由紀夫vs東大全共闘 1969-2000』（共著、藤原書店）、『天皇の戦争責任』（共著、径書房）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/> メール hashizm@valdes.titech.ac.jp

□1□ 20世紀はどんな時代だったか

- 0) 「この国には、まだ掃除しきれていない20世紀が、いっぱいあると思う。」～宝島社
- 1) 総力戦体制：国家が総力をあげて、経済・政治・言論…を動員し戦争に邁進する
- 2) 20世紀前半～世界大戦の時代
- * 日露戦争（1904）機関銃・トーチカ→戦線膠着→消耗戦→経済力 戦時国債
 - * 第一次世界大戦 戦線膠着→消耗戦→戦車、飛行機、毒ガス 前線～後方の一体化
 - * 第二次世界大戦 電撃戦、機甲部隊、機動部隊 戦略爆撃（後方を破壊）⇒ 原爆
- 3) 20世紀後半～冷戦＝当然起こる戦争が、不可能な状態
- * 戦略核兵器 相互確証破壊（先制攻撃を受けても反撃可能）→軍事費が経済を圧迫
 - ABM条約～迎撃ミサイルの配備を制限～米ソの国土防衛は不可能 →恐怖の均衡
 - * SDI（スターウォーズ）→均衡崩壊 ⇒ NMDに継承 cf TMD（戦域防衛）
- 4) ポスト冷戦の90年代
- * 改革開放・ペレストロイカ（社会主義の脱構築）→市場経済・外資の導入→国際化
 - * 全球化（グローバルイゼーション）→比較優位 comparative advantageの再定義
 - * 日本の失われた10年 ←東アジア経済の台頭／安全保障が不安定／アメリカの復活

□2□ 日本は、20世紀をどのように経験したか

- 1) 20世紀の前半～軍部の暴走＝政府・議会が、軍をコントロールできない
- * 戦争目的の喪失 陸軍：対露 海軍：対米 安全保障→朝鮮半島防衛→日清、日露
 - * 統帥権の独立 陰謀続発：張作霖爆殺→満洲事変（柳条湖）→日華事変（盧溝橋）
 - * 国際的孤立 ワシントン体制（門戸開放、機会均等、軍備管理）への違反
 - 国益→政略（外交）→戦略→戦術 が混乱 北進論／南進論 その場しのぎ
- 2) 20世紀の後半～アメリカへの依存＝安全保障の面で、自立をはからない
- * 戦後民主主義 軍・財閥解体、農地改革、教育改革 政府の権限はむしろ強化？
 - * 経済大国への道 日本株式会社（年功序列・終身雇用）、地価神話、護送船団方式
 - * 自民党一党支配 官僚優位 ⇒湾岸戦争ショック 環境変化（危機管理）に弱い
 - * アメリカの対日観 No.1 →Japan パッシング（中国重視） 日本はアメリカ重視を

□3□ 21世紀はどんな時代か

- 1) 科学技術の時代
- * 情報技術 コンピュータ、自動翻訳、ロボット（介護、軍事）、ホームオートメーション
 - * 生命技術 遺伝子選択（高知能）、遺伝子医療（長命化）⇒南北格差がより顕著に
 - * エネルギー 石油・ウラン（渇渇）、石炭（硫黄）、増殖炉・核融合（未完成技術）
- 2) アジアの台頭
- * 経済 20世紀前半のGDP序列 中国／アメリカ／インド／日本… アジアに重心
 - * 安全保障 2020年危機（中国が台湾侵攻）→米中対決？ アメリカ＋アジアの安否
 - * 科学技術 RD～アメリカ／技術開発～日本／生産～アジア ⇒アジアの逆襲？
- 3) 地球環境の危機 環境にやさしい＝人間に厳しい！
- * 人口爆発 地球人口は百億へ→可耕地面積に限界→食糧不足（＋肉食）⇒貧困拡大
 - * 気候変動 温室効果ガス（含：炭酸ガス）増加→気温上昇→海面上昇 ⇒熱縮
 - * 資源制約 利用可能エネルギーの制約→全資源の制約→ゼロサム・ゲーム ⇒対立

□4□ 21世紀を迎える、日本の課題はなにか

- 1) 「政治的意思決定」能力の強化 国益を明確化→複数の政策案→論争→公開の決着
- * 政党改革 楽しい党員集会→有権者を向いた国会議員→政治資金は有権者から政党へ→政治改革は有権者改革 例）次点歳費制、党員チケット制、霞ヶ関→永田町へ
- 2) 安全保障の再構築 アジアに対して、アメリカの核の傘は有効か？ cf. 2020危機
- * 米欧なみの磐石の平和を、東アジアに構築 ソフト路線…日本は中韓に不可欠の国にハード路線…アメリカとの同盟強化（通常戦力）、TMD（戦域防衛）、自衛隊→軍に
- 3) 経済発展戦略 成長鈍化・R&D拡大→資金の欠乏→公共投資・地方投資の抑制
- * 地方の財政自立 交付税の廃止、自主財源（企業課税、消費税）の確保 格差容認
 - * 超高齢化→生産力人口の渇渇→企業は海外に 戦略産業育成（言語・食品・ロボット関連）
- 4) 国際社会との良好な関係 人口爆発 1960：30億→2000：60億→2050：150億？
- * 途上国支援（技術移転、教育、保健医療） cf 教育↑、所得↑⇒人口増加率↓
 - * 人口増にみあって、一定の比率で各国から日本に永住を認めよ →国際的地位の強化
- 5) 地球環境への配慮 温暖化のもと、資源配分をめぐる先進国／途上国の対立は深刻
- * 炭素税を率先して導入 気候変動枠組み条約では、欧州と結びアメリカと対立せよ
 - * 省エネ、省資源の技術開発 日本食（大豆蛋白、蒟蒻）、鉄道、マイクロマシン
- 6) 大胆な国内改革 ⇒誇りあるナショナル・アイデンティティを確立しよう
- * 科学技術創造立国 大学の改革と自由化 研究開国（大学を世界に開け）
 - * 歴史 日本の過去を説明できるように アジア諸国と新たな協力関係を
 - * 教育 学区制廃止、校長に権限を、高検の導入、高校&大学入試廃止、奨学ローン
 - * 文化 箱もの→中身の予算 建築費の数％はアートに 図書館（図書費）に予算を例）村おこし図書館（開いた建物にある分野のすべての図書を集める）＋ペンション
 - ふるさと林間学校（都市の小学校と契約、ひと月ずつ泊まりがけで移動学校）
 - 田舎トランクルーム（団地や地域と契約、不要な荷物を格安で預かる）
 - 沖縄復興老人村（老人ケアマンション＋フィリピン看護学校＋苗場マンション）
 - 別な例）旧国鉄赤字解消・老人クーポン：老人＋付添いに格安クーポンを配る。正規運賃の乗客がいらない限り坐れる→年間10万（40万円分）乗れば12兆円償却

神栖町教育委員会
於：町立中央公民館

選択・責任・連帯の 教育改革

2001. 2. 17
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション(全3巻)』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『性愛論』(岩波書店)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『ゴーマニズム思想講座 正義・戦争・国家論』(以上、共著、径書房)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『研究開国』(共著、富士通ブックス)、『選択・責任・連帯の教育改革【完全版】』(共著・勁草書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタローグ)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『三島由紀夫vs東大全共闘 1969-2000』(共著・藤原書店)、『天皇の戦争責任』(共著・径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/> メール hashizm@valdes.titech.ac.jp

□1□ 社会経済生産性本部とは？

- 1) 社会経済生産性本部 ……日本生産性本部が、社会経済国民会議と合体して、数年前にスタート。経済界のほか、労組代表、学識経験者などを加えたNGO組織。
- 2) 社会政策特別委員会 ……堤清二(セゾン文化財団)が委員長、佐和隆光(京大経済研究所教授)が主査。橋爪は、1997年に参加して、専門委員長をつとめる。
- 3) 報告の骨子 ……「選択」=国民の主体性、「責任」=政府に頼るのをやめる、「連帯」=プロとしての誇りと信頼関係、をベースにして、学校教育を再構築しよう。

□2□ 教育の、どこがどう病んでいるのか

- 1) 日本の教育システムには、誰も満足していない → それなのに、変わらない
 - * 親は不満 ・ 学力がつかない ・ 競争が厳しい ・ 教師が頼りない ・ いじめが多い
 - ⇒ そこで、塾や予備校に入れる、私学人気 学校教育に対する不信
 - * 教師も不満 ・ 親は自分勝手 ・ 生徒は暴れる ・ 待遇が悪い ・ 職場の人間関係
 - * 生徒も不満 ・ 授業が分からない、つまらない ・ 教師が勝手 ・ 受験がきつい
 - * 社会も不満 ・ 効率が悪い ・ 現実社会に役立たない ・ 研究のレベルが低い
- 2) 若者は、日本の教育を受けると元気がなくなる
 - * 大学に入ってから、「勉強が嫌い」「自分は何をしたらいい」と悩む若者が多い
 - ⇒ とにかく大学に入れ、大学に入れば何とか、ともの考えずに過ごしてきた
 - * 知識への興味を失い、人生を生きる積極性を失い、他人任せで責任が欠如している
 - * 無規範(アミー)が深く進行し、社会性・公共性を理解しない世代が再生産されている
- 3) 教師集団は、教育力の源泉である「連帯」を見失っている
 - * 教育委員会の任用システム 校長以下、烏合の衆～責任を取らない「官僚」の集まり
 - * 何をいつ、どのように教えるか、現場の権限なし 教育者としての人格を喪失
 - * クラス一斉授業の害悪(落ちこぼれ/学力低下) 生徒の個性を育てるのは無理
 - * 手を抜いても待遇は同じ → だらけ教師が教師集団全体のムードを支配してしまう

□3□ 小・中学校の改革

- 1) 学区制を廃止する ⇔ 親(と子ども)の学校選択権(⇔親の教育権)
 - * 公立学校のあいだに、自然な学校間の競争が生まれる 学校はひとつの経営体に
 - * 学校ごとの個性や特色、父母への説明責任(ならびに結果責任)が求められる
- 2) 校長に、学校の経営権を与える
 - * 人事権 ……教頭、教員、事務員を雇用 待遇も決める リーダーシップを発揮
 - * 予算権 ……予算の使途を決める 人件費と事務費のバランス、学校の特色を明確に
 - * カリキュラム権 ……学習指導要領を廃止 クラス編成や進度を決める 結果で評価
 - * 校長の人材を養成する 教員と別の専門職能 大学に専門課程 副校長(見習い)制
- 3) 学校理事会が、学校経営を監督
 - * 学校理事会 親と地域の代表が、校長を監督 地域社会による選挙(認定投票)
 - * 校長の公募→公聴会→校長の任命→校長の報告を受ける→外部評価も参考に→再任?
 - * 教育委員会の、整理再編 ・ 学校理事会を支援 ・ 教員派遣機構～教員の異動の自由
- 4) 「義務教育」の再定義 相対評価→絶対評価 個々人のニーズに応じた教育
 - * 基礎教育 : 人間が人間らしく生きていく、市民生活の基礎を築く教育 ~小中学校
 - * 基本教育 : 日本社会の産業・経済・制度・科学技術・文化の基礎学力を与える教育 ~高等学校

□4□ 高等学校の改革 生徒の自己選択・学習責任

- 1) 高校入試の廃止 ⇔ 書類による入学者決定 × 偏差値輪切り、無気力・不適応
 - * 学校は、個人ごとの教育メニュー、多様なコースを用意
- 2) 高等学校学力検定試験(高検)を採用 ~ 高校教育を評価する外部規準 問題公表
 - * 高校卒業資格は、高検に一本化 基本教科の絶対評価、高1程度の簡単な試験
 - SAT型 絶対評価(資格試験) 年6回程度 外国人学校、留学生に開放
 - * 高検が高校のアイデンティティになる 小中学校の補習や多様な発展教育も自由に

□5□ 大学の改革

- 1) 大学入試の廃止 ⇔ 学生定員の廃止 + キックアウト制(単位の完全互換)
 - * 高検は、大学出願の基礎資格 加えて、他の資格(TOEFL など)を課してもよい
 - 卒業基準は大学が決定 卒業基準、進級基準は事前公表 → 混雑現象の予防
 - * 志望者は、収容できる限り入学させる ただし、コストを負担 @128-180万円/年
- 2) 奨学ローン、奨学金の充実
 - * 教育の機会均等 銀行が学資(学費+生活費)300万円/年を市中金利で貸与
 - 300万円×300万人=毎年9兆円の減税効果 中高年の負担軽減、世代間公正
 - ⇒ 学生のコスト意識を目覚めさせる 勉強に対する自覚・意欲が最優先
 - * 大学ごとの奨学金(学費免除) 成績と連動 優秀者は特待生→就職に有利
- 3) 研究開国
 - * 教員の任期制、年俸制 国立大学の全教員を、大学教員派遣機構に移管する
 - * 国立大学を、独立行政法人or私立大学に移行 外国人の雇用を促進 年金一元化
 - * 研究資源の配分を、多元的・競争的に 過程の管理ではなく、結果の管理を

NISの会
全日空ビル 6F

日本再生計画・
知恵くらべ

2001.4.26
橋爪大三郎

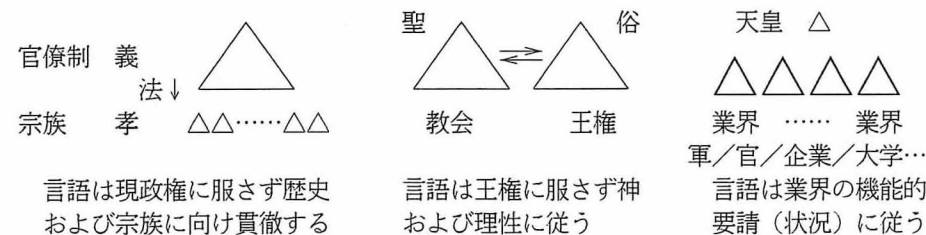
□0□ 講師自己紹介

はじめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全3巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『性愛論』（岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』『ゴーマニズム思想講座 正義・戦争・国家論』『天皇の戦争責任』（以上、共著、径書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『選択・責任・連帯の教育改革【完全版】』（共著、勁草書房）、『こんなに困った北朝鮮』（メタローグ）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『幸福のつくりか』（ポット出版）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（平凡社新書・共著）、『宗教社会学入門』（筑摩書房・近刊）、『政治の教室』（PHP新書・近刊）
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/> メール hashizm@valdes.titech.ac.jp

□1□ 日本人の言葉は、なぜ“軽い”のか？

- 1) 政治家の失言：タテマエ／ホンネ ←加藤典洋「失言と 見」『日本の無思想』
* では戦前、言論はねじれていなかったか？ cf 山本七平『「空気」の研究』：日本教
* ねじれよりも、戦前と戦後に効力をもつ言葉が欠けていることのほうが問題では？
- 2) 皇国史観は誤りか？ ←小路田泰直『「邪馬台国」と日本人』（2000、平凡社新書）
* 明治政権のストーリー 神武でなく天照大神から cf 自由主義史観≡皇国史観の焼直し
⇒中国の影響（魏志倭人伝）以前に日本の実態が必要⇒邪馬台国九州説（白鳥倉吉）
- 3) 忠孝一如≡儒教の日本的変形 ←吉田松陰『講孟剖記』（獄中で口述した『孟子』の講義ノート）：「凡そ君と父とは其の義、一なり」～他国に遊説した孔孟を批判
* Hyp)「忠孝一如」の原理は、帰属集団を絶対化（言語を相対化）する。
～儒教の二律背反（Confucian Dilemma）の解消!? ⇒天皇制の創出／言論の“軽さ”
- 4) 儒教（中国）システム、西欧システムに比較し、日本システム（天皇制）では状況が絶対化する
「一本は天地の常理、皇国の大法にして、漢土聖人の至教なり。…父子と君臣と、善く見ざれば二本になるなり。…一旦は重き方の為、に、軽き方を棄てて顧みざることもあれども、其の事終る時は、又前の罪過を償うべき事、固よりなり。」 勤皇佐幕→勤皇倒幕（尊皇攘夷）→尊皇開国→天皇機関説→皇道派→… 「志」≡状況依存的な心情倫理
「志士は溝壑に在ることを忘れず」 シクロコスモス ～死～マクロコスモス（悠久の大義）



5) 日本近代のトラウマ

- * 尊皇思想の「忠孝一如」原則は、朝廷～幕府の二元的体制を破壊し、天皇の「大権」による近代化を起動しおこせた。 国家は世俗・神聖の二重の存在に（国家神道）
- * 「忠孝一如」原則強調は、外国の脅威へのリアクション≡ナショナリズム ⇒立憲君主制へ
- * 個人の帰属を「忠孝一如」原則で吸収する各業界も、神聖性を帯びる ⇒天皇の象徴化

□3□ 戦後日本の言論は、どこがどうだめか

- 1) 総力戦～日本社会全体が「Σ業界」として再編された＝国体 昭和の大動員体制
⇒戦後日本社会は「Σ業界」のまま存続 アメリカの大権＋象徴天皇＋世俗の業界
- 2) 思潮の交代：マルクス主義→実存主義→構造主義→ポストモダン→カルスタ、…
* 日本社会の系譜を忘却するスタイル～モダニスト ますます軽くなっていく
* 言葉が“軽い”のは、言葉の源泉が、理性でも権力でも信念でもないから ⇒失語症
⇒理性も権力も信念もなしに語り続けようとする、と、「価値相対主義」になる
- 3) 価値相対主義 vs 価値絶対主義 Df 絶対≡相対の極大値(?) ⇒制度形成力
* Hyp)絶対／相対の区別は、相対的である。 cf Th)価値相対主義は成り立たない。
人間は、あることがらを絶対化することで、あることがらを相対化できる。逆も真。
- 4) Hyp)絶対／相対の区別をうみださない空間では、状況が絶対化しうる。 Cf「空気」
* 日本の場合：言語～理性～権力は、互いに相対的 ⇒その総体（≡状況）が優位する
* しかし、その事実（状況の優位）そのものを記述すれば、状況の優位を揺るがせる

□4□ 21世紀を迎える、日本の課題はなにか

- 1) 「政治的意思決定」能力の強化 国益を明確化→複数の政策案→論争→公開の決着
* 政党改革 有権者を向いた議員→政治資金は有権者から政党へ→政治改革は有権者改革例) 次点歳費制（国会議員を半分に、次点候補者には歳費を支給、選挙運動の恒常化）
党員チケット制（楽しい党員集会＋政策論争＋党員チケット販売→予備選投票）
官僚大移動計画（霞ヶ関→行政府→永田町＝立法府に半数を移動、国会強化）
- * 政治的言論の再生 スタイル 自己決定／委任＝選挙 権限の委譲と説明責任
- * 政策科学の振興 シンクタンク 中国研究所、アメリカ研究所 異動の自由化
- 2) 安全保障の再構築 アジアに対して、アメリカの核の傘は有効か？ cf. 2020危機
- * 米欧なみの磐石の平和を、東アジアに構築 ソフト路線…日本は中韓に不可欠の国にハード路線…アメリカとの同盟強化（通常戦力）、TMD（戦域防衛）、自衛隊→軍に
- 3) 経済発展戦略 成長鈍化・R&D拡大→資金の欠乏→公共投資・地方投資の抑制
- * 地方の財政自立 交付税の廃止、自主財源（企業課税、消費税）の確保 格差容認
- * 超高齢化→生産力人口の涸渇→企業は海外に 戦略産業育成（言語・食品・ロケット関連）
- 4) 国際社会との良好な関係 人口爆発 1960：30億→2000：60億→2050：150億？
- * 途上国支援（技術移転、教育、保健医療） cf 教育↑、所得↑⇒人口増加率↓
- * 人口増にみあって、一定の比率で各国から日本に永住を認めよ →国際的地位の強化
- 5) 地球環境への配慮 温暖化のもと、資源配分をめぐる先進国／途上国の対立は深刻
- * 炭素税を率先して導入 気候変動枠組み条約では、欧州と結びアメリカと対立せよ
- * 省エネ、省資源の技術開発 日本食（大豆蛋白、蒟蒻）、鉄道、マイクロマシン
- 6) 大胆な国内改革 ⇒誇りあるナショナル・アイデンティティを確立しよう
- * 科学技術創造立国 大学自由化 研究開国（大学を世界に開け） ×一兆五千億
- * 歴史 日本の過去を説明できるように 靖国神社問題の「根本的な解決」
- * 教育 学区制廃止、校長に権限を、高検の導入、高校&大学入試廃止、奨学ローン
300万人×300万円×55%（45%は奨学金で還元）＝5兆円／年の信用創造
- * 文化 箱もの→中身の予算 建築費の数％はアートに 図書館（図書費）に予算を例) 村おこし図書館（開いた建物にある分野のすべての図書を集める）＋ペンション
ふるさと林間学校（都市の小学校と契約、ひと月ずつ泊まりがけで移動学校）
田舎トラノクルーム（団地や地域と契約、不要な荷物を格安で預かる）
沖縄復興老人村（老人ケアマンション＋フィリピン看護学校＋真駒内マンション）
別な例) 旧国鉄赤字解消・老人クーポン：老人＋付添いに格安クーポンを配る。正規運賃の乗客がいない限り坐れる→年間10万（40万円分）乗れば12兆円償却

2001-5-⑤

蔵前工業会神奈川
支部例会講演会
於・百年記念館

国際化のなかの
東京工業大学

2001.6.7
橋爪大三郎
(社会学)

□0□ 講師紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年生まれ。東京大学大学院社会学研究科博士課程修了。
執筆活動を経て、1989年東工大工学部助教授(社会学)。現
在、大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。専門は理論社会学、アジア研究。
主な著書に、『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『橋爪大三郎の社会学講義』
『こんなに困った北朝鮮』『言語派社会学の原理』『天皇の戦争責任』『幸福のつくりか
た』『ヴォーゲル 日本とアジアを語る』『世界がわかる宗教社会学入門』ほか。

□1□ 国際化とはなにか

- 1) 情報の移動
・丸善に洋書を買いに+研究室で洋書の筆写⇒コピー⇒ワープロ、PC⇒インターネット
- 2) 人の移動
・氷川丸・フルブライト⇒留学大衆化⇒留学生過半数時代
- 3) グローバル化
・査読ジャーナル、Ph.D. の一般化 ・企業のR&Dが拡大⇒産学協同 ・世界の中の大学

□2□ 東工大の国際化

- 1) 留学生
・750人(2000年)で推移 学部173/5297、修士179/3138、博士289/1352 外国人は8%台
中国 244 韓国 142 インドネシア 55 タイ 46、マレーシア 36 パンダラシ 23、ベトナム 19、台湾 17
- 2) 国際大学院(1993～)
・MDの計50～60人/年で推移
- 3) 交流協定
・88大学と協定(2000年) eg U T S (ソニー工科大学) …毎年学部学生を東工大に派遣

□3□ 試みの具体例

- 1) 留学生の受け入れ
・橋爪研究室の場合 中国3、パンダラシ 1、韓国1、(ポーランドの客員1申請中)
- 2) 中国短期留学
・学部3年生数十名を毎年、99年度発足の留学制度によって、天津社会科学院に派遣
- 3) 清華大学との交流計画
・学術振興会の拠点大学方式による学術交流計画……清華大学 10人×10年=100人
研究課題…「総合政策科学/情報技術革命下の社会的合意と政策形成」
相手機関～21世紀発展研究院&公共管理学院
公共管理学院は、中央官庁の公務員500人を修士に迎える予定 MPA学位
・清華大学の発展構想 公共管理学院、法学院、経済管理学院などを柱に総合大学化

橋爪大三郎 2000 「大学を国から奪え」『論座』6月号

橋爪大三郎 2000 「ハーバード大学みたま記」『季刊・本とコンピュータ』春号

□ 0 □ 講師紹介

はしづめ・だいさぶろう…1948年神奈川県生まれ。東京大学大学院社会学研究科博士課程修了。無所属をへて、現在、東京工業大学教授（社会学）。
主な著書に、『選択・責任・連帯の教育改革【完整版】』勁草書房・共編著、『幸福のつくりかた』ポット出版、『橋爪大三郎の社会学講義』夏目書房、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』平凡社新書、『世界がわかる宗教社会学入門』筑摩書房、ほか。

□1□ 結果責任とはなにか

- 1) 結果責任=accountabilityか？ アカウンタビリティなら、説明責任ではないのか？
- ・説明責任のほうが、チャータースクールにとって根本的だと思う。
- 説明責任の特別なあり方として、「結果責任を問われる」かたちになるのではないか。
- 2) (参考) 立証責任：法学・政治学で、証拠をあげる責任を負わされた側が弱くなる
- ・刑事犯罪の被告のケース……原告（検察）が有罪を立証する。立証できれば有罪。立証できないなら無罪。結審まで推定無罪。（被告は自分の無罪を証明する必要がない）
 - ・政治家の疑惑のケース……政治家が潔白を立証する。立証できれば潔白。立証できなければ、政治責任あり。（国民は、政治家が有罪である証拠を集める必要がない。）
- ⇒立証責任は、授権された側（権力者）が負う。 ～授権した国民＝弱者とのバランス
- 3) 学校の説明責任（＝結果責任） 学校は税や施設や便宜を供与される事業（権力）体
- ・説明の方向 校長（＋スタッフ）→親（＋児童） 親は税負担し、選択権あり

☐2☐ なにを説明すべきなのか

- 1) ほかの学校と比較した場合の、この学校のパフォーマンス(相対的によい点)
- ・公立学校が多様である～親が学校を選択する～学校の相対的なパフォーマンスが大事
 - ・もちろん、学校の理念や、独自の成果を説明することは大切である
 - ・けれども、ほかの学校と比較可能で、社会の期待にも合致している必要がある
- 2) 教育目標の明示(親への約束) → 達成度の評価(親による学校の信任)
- ・学校の理念: 校長をはじめスタッフの共有する価値前提 …学校の自己評価の規準
 - ・教育方針: 理念を具体化する実行プラン(到達目標) …具体的に理解可能に
 - ・教育の成果 …親が判断できる程度に具体的、学校の外に持ち出せる程度に客観的
- cf 「やりたいことをやりつづける理由を説明できる子どもが8割以上いる」～1) 具体的にでない、2) ほかの学校と比較できない、3) 学校の外に持ち出せない(学校内の話)
- 3) 共通目標(外部規準)の重要性 ほかの学校との比較が大事
- ・経理(投入された資金がどのように用いる／用いられたか)
 - ・人事(人材をどのように雇い、解雇する／したか)
 - ・カリキュラム(どのように教育を行なう／行なったか)
- ⇒ ・どのような教育効果を収める／収めたか 各教科の達成度(外部テスト)～卒業時

□3□ 学校の説明責任を、どのように問うか

- 1) 教育の「結果」はどのように現れるか
- ・ 社会に対するパフォーマンス 家庭⇄学校⇄社会
 - ・ 本人(受益者)の満足・成長・達成 →本人に申告能力なし、将来にわたるので測定
 - ・ 親の満足～とりあえず、これが測定可能 ……親の統一アンケートを開発すべき
- 2) 評価の統一性 ⇔ 個々のチャータースクールの多様性 …矛盾せず、むしろ相互促進
- ・ チャータースクールが、通常の社会通念にとっても十分教育効果をあげていることが、一般の公立校やほかのチャータースクールにとって、よい刺激になる
 - ・ 社会がすべての学校に対して抱く「一般的な期待」を満足していることは、説明責任の中心のひとつ 親の満足は、社会の「一般的な期待」を反映している
- 3) 基礎学力～教員が用意したことを教わる～小学校だからこれだけは必ずしなければならない を身につけることは、児童生徒の生きる可能性を保障する、人権の一種では？
- ・ 社会の「一般的な期待」は、カリキュラムや、学校の存在そのものの根拠(税負担の理由)になっている
 - ・ 健康、言葉に関する能力、人間関係に関する能力、数や自然現象に関する能力……は、児童生徒が好むか好まないかにかかわらず、将来の社会生活を保障する基礎となる
- ⇒ だからこそ、より楽しく受け入れやすいかたちでこれを提供する義務が、学校にあるのでは。
- ⇒ 「社会は、現実的制約があり、学校もその基礎のう上に成り立っている」ことを理解すること、それに立ち向かう積極性と勇気をもつことも、学校教育の重要な一部では？
- ⇒ 児童生徒が、自分の評価の主体であるというやり方は、現実原則を混乱させる理解しにくいアイデアに思われる

1 戦争について考えよう

1-1 安全保障とはなにか

戦争について考えることはタブーだった

戦争について考えなければ、平和なのか

1-2 人類の歴史は、戦争の歴史だった

戦争はただの殺し合いではない

ヨーロッパ近世に、戦争のルールが発達した

2 主権国家と戦争

2-1 政治・外交と軍事とは連続的である

戦争……実力によって相手国に自国の意思を押しつけること（定義）

戦争は、新しい現実をつくり出す（相手国の主張×自国の主張→決着）

2-2 政略→戦略→戦術 戦争のヒエラルキー

戦争には、戦争目的がある 目的達成のための合理的行動

クラウゼビッツ『戦争論』…1) 敵軍殲滅、2) 領土占領、3) 意志をくじく

2-3 補給はなぜ大切か

会戦平面～横隊～補給～傭兵（自己武装でない）+職業軍人（勲章・転職）

軍政/軍令の分離 会戦序列の決定 参謀本部の成立

3 近代の戦争

3-1 歩兵 師団（作戦単位）～連隊～大隊（横列戦闘単位）～中隊～小隊～班

歩兵は、1) 敵の殲滅、2) 領土の占領、3) 民間人の保護、を行なう

3-2 戦術の変化 cf 石原莞爾『最終戦争論』

・傭兵→徴兵（国民軍）へ 戦闘意欲↑、兵力↑

日本は傭兵の歴史がなく、いきなり武士→国民軍となったので、補給が弱い

・ナポレオンの戦術改革 横列→縦列 すみやかな移動と戦力の集中 十字砲火

・持久戦へ（日露戦争→第一次大戦）機関銃（防御に適する）・縦深陣地

敵正面の突破・迂回が困難に →戦車・毒ガス・飛行機

3-3 総力戦 戦争目的を第一に、国家・社会全体が組織される態勢

前線と後方の区別がなくなる（空襲）

・石原の予言：最終兵器の登場は、戦争を不可能にする →核兵器（最終兵器）

4 冷戦

4-1 冷戦は、なぜ安定していたか

・2国の対立 二体問題/三体問題

・相互確証破壊 (⇒防御ミサイルの禁止=A BM条約)

・核の傘（恐怖の均衡）…通常戦力による局地戦は不可能に

例外：朝鮮戦争、ベトナム戦争、アフガン戦争

日米安保条約～戦争巻き込まれ論 の非現実性

4-2 ポスト冷戦の時代

・湾岸戦争 アメリカ極時代と、国連中心主義（多国籍軍）の一時的復権

・米中对決の時代 cf ハンチントン『文明の衝突』

ブッシュ政権の戦略変化 二正面作戦（中東・アジア）→アジア重視

5 21世紀の地球安全保障

5-1 MD（ミサイル・ディフェンス）の構築

・NMD（アメリカ本土を、核攻撃から防衛）

・TMD（戦域——日本や台湾——を核攻撃から防衛）

前方展開の必要性

から合体した

5-2 日米安保の再定義、日米ガイドライン改定 ⇒日米「集団安全保障」へ

・日米安保「再定義」……敵国ソ連の消滅→同盟の再定義→中国封じ込め？

・新ガイドライン……「周辺事態」：そのまま放置すると日本の安全を脅かす

恐れのある事態 地理的概念ではない

・日本のMDへの参加……「専守防衛」ではありえない（アメリカ防衛）

→定義上、「集団安全保障」に参加 ⇒1) 憲法改正、2) 解釈改憲

5-3 MD安全保障態勢

・特徴 1) アメリカ極態勢、2) 欧州、日本の協力、3) ソ連の中立

4) 北朝鮮など冒険的核保有国の脅威を封じ込め

・東アジア情勢 2020年危機（中国の台湾侵攻）⇒封じ込め

・中国ナショナリズム問題 市場経済と一党支配との矛盾が極点に

・第三世界問題 核保有と冒険主義で安価に政治力を獲得する途上国が続出？

5-4 日本の、非軍事安全保障戦略

・人口戦略 …途上国への教育支援 教育と所得が人口を抑制

・産業戦略 …途上国への技術支援 在来技術の活用、保護貿易圏の設定

・環境戦略 …省資源型ライフスタイルの提案 ×自動車×冷暖房×肉食×アメリカ

・移民戦略 …秩序ある移民を支援 国別・地域別人数割り当て、多民族化

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年生まれ。東京大学大学院社会学研究科博士課程修了。
社会学者。主な著書に『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『橋爪大三郎コレクションⅠ～Ⅲ』（勁草書房）『はじめての構造主義』（講談社現代新書）『言語派社会学の原理』（洋泉社）『天皇の戦争責任』（径書房）『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（平凡社新書）『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）ほか

□1□ 価値と効用関数

- 1) 功利主義 utilitarianism 幸福計算「最大多数の最大幸福」～J. Bentham
神でなく、国民に対する責任 → double optimal → ×
 - ・初期効用関数 $u = u(x_1) + u(x_2) + \dots$ 効用の可測性 measurability?
 - ・効用のパラドクス 水のように価値のあるものの価格が低いのは? → 労働価値説へ
- 2) 限界革命 L・ワルラス Walrus 『純粋経済学要論』 + Menger, Jevons
 - ・効用関数 $u = u(x_1, x_2, x_3, \dots)$ ～近代経済学の大前提
 - ・限界効用 marginal utility $\partial u / \partial x_1$ 商品の価格は限界効用に比例して決まる
 - ・行動の合理性 ⇔ 目標関数の存在 効用極大化（消費者）、利潤極大化（企業）
- 3) 効用関数（一元的な価値尺度）の存在条件
 - ・無差別曲線 indifference curve : 序数的 ordinal 効用関数 Edgeworth の box diagram
合理性 : 曲線が交わらないこと、原点に凸 convex to the origin
 - ・顕示選好 revealed preference サミュエルソン → ハウタッカー → 安井琢磨
選択肢集合（行動空間）上の二項関係 binary relation R で、顕示選好の強公理、
ならびに、そのほかの一連の条件（→ 安井、橋爪）を満たす
 $a R b$: a is revealed to be preferred to b. $p a \geq p b$ p : 価格
 $a R^* b$: $a R x_1 \wedge x_1 R x_2 \wedge \dots \wedge x_n R b$ 強公理 : $a R b \Rightarrow \neg b R^* a$
・顕示選好は、効用関数の overt, measurable な表現であり、価値の公理的な基礎づけ

□2□ 価値と社会

- 1) 厚生経済学の基本定理（エッジワースの拡張）
 - ・パレート最適 Pareto optimality 完全競争市場における均衡は、各人の効用を極大化する（→ 計画経済に対する実質的・道徳的優位）
価格パラメータによる、各人の行動（売買数量）の集計可能性 初期条件の問題
- 2) 合成の誤謬 fallacy of composition 効用関数（合理的な価値）を仮定し、個人
人の行動を説明できたとしても、その相互作用や社会全体を説明できるとは限らない
 - ・投票の逆理 voting paradox コンドルセ 赤 > 白 > 黒
 - ・アロウの不可能性定理 白 > 黒 > 赤 ⇒ 合成?
K. J. Arrow Social Choice and Individual Values (邦訳は日経)
選好の無制約性 × 全員一致 × 無関係選択肢からの独立 ⇒ 非独裁制 (?!)
- 3) ゲームの理論 効用関数があり、行動の集計可能性がない場合
実現される状態は、行動選択の直積となる（利得行列 payoff matrix）

- ・ゲームの理論には、1) さまざまなゲームがあり、2) さまざまな均衡があり、3) さまざまな解釈がある。 多人数の場合、簡潔な数学的取扱いが困難である。
- ・ゲーム理論は、現実を写したモデルというよりも、数学的ツール。
→ どんな現実に応用できるか、保証がない。 効用関数を仮定できる条件とは?
- 4) 構造-機能分析 Structural-Functional Analysis 一元的な効用関数がない場合
- ・パーソンズ T. Parsons の A G I L 図式 …… システム論を、社会理論に応用
Hyp どの社会システムにも、4つの機能要件 functional requisite がある。
→ Q 複数の機能要件（= 評価関数）を仮定すると、multiple optimality の誤謬?
→ Q 全体システムと部分システムの関係も、同じく multiple optimality の誤謬?
（橋爪大三郎ほか 1984 「危機に立つ構造-機能理論」『社会学評論』35-1:2-18.）
- ・社会を考察する場合の困難…… 個人や集団や全体社会が、
 - 1) たったひとつの価値（評価関数）をそなえていると考えるのは、非現実的
 - 2) 複数の価値（評価関数）をそなえていると考えるのは、非論理的

□3□ 価値と言語

- 1) 人間や社会のさまざまな価値は、数学や論理でなく、言語によって表現されてきた。
 - ・言語…行為の理由を説明/行為の前提を表現/行為の目的を表明/行為そのものを記述
 - ・言語 ⇔ 思考 ⇔ 意思決定 言語がなければ、意思決定も行為もありえない。
 - ・言語それ自身が、行為の一種でもある。 意味 : 言語が指し示すもの
- 2) 人文学 humanities : 人間や社会のさまざまな価値のあり方を言語に表現したもの
 - ・哲学…人びとの言語の用法に規準を与え、価値のありかについて明晰に語る努力
 - ・宗教…どのような価値を選択し、どのような価値を前提に行動するかを特定する
 - ・歴史…どのような状況で、人びとがどのような意思決定をしたかの、事例の集積
 - ・文学…特定の具体的な状況で、個々人がどう考え行為するか、架空の実例を列挙
- 3) 言語はなぜ、意味を指し示すことができるか（→ 近刊『はじめての言語ゲーム』）
 - ・言語ゲーム language game 哲学者 L. Wittgenstein の、後期の思想（『哲学探究』）
Th 言葉の意味を、定義によって与えることは不可能である × 直示的定義 × 辞書定義
Th 根拠づけられたことがらの前提となっているのは、根拠づけられないことがらである
 - ・言葉の意味は、有限の事例をみて「理解」することによってえられる
ある言葉（たとえば「机」） : 事例1、事例2、事例3、……（以下同様）
Th 「理解」を、それ以上詳しく記述したり説明したりすることはできない
- 3) 言語はいかに、価値を表すことができるのか
 - ・言語は、1) さまざまな価値の矛盾と共在を表し、2) 個々人のさまざまな価値と関連を表し、3) 価値と状況との相関を表し、4) 個々人の死とその価値の社会への接続を表すことができる。 cf 効用関数は個々人の死を表すことができない
- 4) 巧みな言葉は、人びとの合意（すなわち客観的な価値）をつくり出す
 - ・政治 : 人びとを拘束することがらを決めること ∴ 自分に利益であると納得する
 - ・演説、説得、説明、命令、……など言語のはたらきが、人びとの合意をうみだす
 - ・言語を巧みに用いることが、価値を現実化し、人びとを動かす方法である
 - ・言語の用法（言説編成 discourse formation）に修練することが、価値と実践に関わる正統的なやり方 価値に関する理論よりも、言語の用法（プラクティス）が大切

2001-5-(9)

(学) 鉄鋼学園
人材開発センター

第56回・管理者セミナー

2001. 8. 29

於：NKK経営研修所

日本の明日を考える



橋爪大三郎 (東工大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればいいのか』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』(共著、富士通経営研修所)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著、勁草書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房・新刊)、『政治の教室』(PHP新書・近刊)、『企業批評(仮題)』(共著、廣済堂出版・近刊)ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

□1□ 小泉政権は日本を救うか?

- 1) 小泉政権のねじれ構造 支持率80%強-自民党支持30%強=無党派50%(!)
 - ・派閥党内力学<国民的人気 「加藤の乱」はその前哨戦 解散・新党カード
- 2) “痛み”はこれからが本番 「構造改革なくして景気回復なし」 改革→景気?
 - ・政府推計は甘い 50兆円の負債を償却して失業二五〇万人(斎藤精一郎氏の試算)
- 3) 靖国参拝 清算されない過去 ポスト冷戦の世界再編 東アジアは危険地域
 - ・MD(TMD+NMD)~日本が米国を支援~日米安保の枠をはみ出る集団安保体制
- 4) 「空白の九〇年代」の後始末 利権・集票構造の解体→マルチメディア型大衆政治
 - ・政界再編は必然である 小泉総裁選は新党を視野に入れていた→中止→その先?

□2□ 21世紀は、どんな世界になるか

- 1) 超産業社会がやってくる
 - ・ビル・ゲイツの予言 IT革命~情報コストの劇的低下 ブロードバンド時代 いつ、誰とでもコミュニケーションが可能 →組織、国家の輪郭があいまいに
 - ・レスター・ブラウンの予言 地球環境制約の深刻化 気候変動~炭素税~熱縮 石油、天然ガス、天然ウランの枯渇→エネルギー価格高騰 石炭の代替は困難
 - ・マルサス&ローマクラブの予言 人口爆発 農地の拡大困難→食糧不足→価格高騰
 - ・⇒情報価格↓×資源価格↑(資源/情報ギャップの拡大) 国際社会の緊張増大
- 2) 先進国の動向
 - ・アメリカ~唯一超大国としての軍事的優位 but経済力の長期低落 →多角的バランス 2020年のGNP予測 中国~アメリカ~インド~日本~…… 世界の中心はアジアへ
 - ・EU~国家の壁を越える共同体 統一の通貨・制度 →ロシア、イスラムの排除
- 3) 中国・東アジアの動向
 - ・統一コリアの誕生? 南北会談で、統一を共通目標として確認→7千万国家の登場
 - ・中国の将来体制? 社会主義/市場経済の矛盾 台湾問題 中国vsアメリカ cf日米ガイドライン 日本の「周辺事態」に対応 台湾が入るか「曖昧」政策

4) 第三世界の動向

- ・権利としての経済発展←→環境制約 先進国エゴを糾弾する世界思想or世界宗教
- ・イスラム圏 西欧文明に対する抵抗者として登場するか cfイランの憲法体制
- ・京都議定書に対する反対 議定書=先進国の現状維持体制

□3□ 21世紀、日本は復活できるか

- 1) 日本の21世紀戦略 ~文化の創造的価値を重視
 - ・「科学技術創造立国」路線 独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
 - ・国際分業のなかに活路を見出す 日本市場→世界市場 企業行動の世界標準化
 - ・「人民」のための政府・制度・社会の建設を! 無党派の時代・選択の時代
- 2) 政治の改革 ~意思決定力の強化
 - ・国会の機能強化 次点歳費制(議員を半分に) 調査・立法機能の充実
 - ・中央省庁の権限縮小・簡素化・規制緩和 特殊法人の民営化 人事異動の促進
 - ・地方政府の自立 財源(たとえば消費税)を移管して交付税を廃止 委任事務廃止
- 3) 企業社会の改革 ~経済体質の強化
 - ・戦後社会は、資本主義でなかった! 配当が低い=株主不在/累進課税/資産課税 ⇒持株会社の復活 ベンチャー企業育成(自由競争、間接金融)
 - ・入り口文化、年次別管理からの脱却 インターンシップ/年俸制/転職の自由
- 4) 教育の改革 ~新しいタイプの日本人形成を
 - ・小中学校:学区制の廃止、校長に経営権(含人事権)を、学校理事会の設置
 - ・高校:入試廃止、高検(高等学校学力検定試験)の導入、個人カリキュラムの編成
 - ・大学:入試廃止、学費アップ×奨学ローン×大学ごとの奨学金、研究ポスト公開
- 5) 東アジア国家としての再出発
 - ・公民権制度を導入 →在日外国人を日本社会の正規メンバーに →統一コリアに対応
 - ・歴史と向き合う国民 学生交流、民間対話、史跡訪問、芸術作品助成、……
 - ・アジア諸国共存のための国際秩序を アメリカのプレゼンスを重視しよう
- 6) 明瞭な世界戦略とメッセージを
 - ・非西欧先進国としての利点 言語障壁、非肉食文化、縮み文化の利点
 - ・国際協力の戦略を 教育援助(初等識字教育→人口↓) 在来農法・技術援助

* 橋爪大三郎「政治の教室 または現代政治家の条件」『広告批評』251号(2001年8月)

橋爪大三郎「歴史と向き合う国民(仮題)」『諸君!』2001年10月号

2001-5-(10)

東奥情報懇談会9月例会 教育・改革・民主主義 2001.9.11
於：青森グランドホテル ～小泉政権以後を展望する～ 橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』(共著、富士通経営研究所)、『選択・責任・連帯の教育改革【完全版】』(共著、勁草書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタローグ)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書・近刊)、『企業批評(仮題)』(共著、廣済堂出版・近刊)ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

□1□ 小泉政権と、改革の課題

- 1) 小泉政権のねじれ構造 郵政民営化＝「改革派」のアイデンティティ
・異常に高い支持率 その内訳 85%＝自民党支持35%＋無党派(反自民)50%
七福神効果：田中外相(反橋本)、塩川財相(枯れた味)、竹中大臣(やんちゃ坊主)
・離党カード 田原氏によると、小泉氏は総裁選で負け、離党→新党を考えていた
- 2) 待ったなし経済政策 国債30兆円は、守れるのか
・景気対策/構造改革の矛盾 景気刺激～有効需要創出～歳出増/構造改革～歳出減
補正予算(短期の対策)/概算要求(長期目標)がばらばら 日米同時不況?
・土建国家は、「ケインズ政策の失敗」でない ケインズ：「赤字国債は緊急非難」
・不良債権とは 銀行の貸付け問題と考えるな 過剰設備、無駄な公共投資のツケ
・経済政策の矛盾を克服するのは、一国経済→世界経済への発想の転換 →日本エイド
- 3) 安全保障と日米関係 ブッシュ政権が小泉政権を支持するのはなぜか
・MD(ミサイル防衛)＝TMD(戦域……)＋NMD(本土……) →集団自衛権!
・日米ガイドライン改定(97) 「周辺事態」～台湾海峡は入るのか? 対中抑止力
・下降するアメリカ経済&台頭するアジア ⇒欧日との連携・ハイテク戦力・封じ込め
- 4) 歴史と教科書の問題 なぜ小泉首相は靖国神社参拝にこだわったか
・教科書問題 韓国・中国は国定教科書 隣国条項の悔恨 民主主義の原則
政府は教科書の当事者でない いろんな見解や教科書があるのは可 民間の努力
・靖国神社≠戦争神社 神道は宗教でない?!→神道指令 靖国神社は墓地でない
「A級戦犯＝悪＝参拝不可」は思考停止 英霊を靖国神社が独占 問題の解決とは?

□2□ 選択・責任・連帯の教育改革

- 1) 学校の機能回復をめざして 公教育が回復しないと日本の未来はない
・日本の教育システムには誰も満足していない でも変わらない 親・生徒・教師の不満
・若者は、日本で教育を受けるほど元気がなくなる アノミー(無気力、無規範)
・教師は「連帯」を見失っている 現場に権限なし 文科省・教委・校長・教頭・教員
- 2) 小中高校の改革 学力を身につけるのは人権問題

- ・学区制の廃止 自由選択→競争的環境 学校設置の自由化(チャータースクール)
- ・校長に権限を 人事権・経営権・予算権 教員の異動の自由 学校理事会 ×教委
- ・高校入試の廃止→書類選考 職業高校の廃止→コース選択制 個人に合わせた教育
- ・高検(高等学校学力検定試験)の導入 コア学科の外部統一試験を卒業資格に
- 3) 大学の改革 教育～学費値上げ×奨学金充実 研究～競争的研究資金×研究開国
- ・大学入試の廃止→学生定員の廃止 高検(基礎資格)＋他の資格 キックアウト
- ・奨学ローン・奨学金の充実 300万人×300万円＝9兆円の減税効果
学生のコスト意識・勉学意欲 優秀者は大学ごとに奨学金(給付)～スリーニング 機能
- ・教員の任期・年俸制 国立大は独立法人化・民営化 大学教員派遣機構に移籍
- 4) 研究開国 競争的な研究費の配分 ポスドク・教育に外国人を

□3□ 民主主義・日本の21世紀

- 1) 民主主義とは 全員一致→多数決 みんな仲良く→異質性・独自性の尊重
・代表なくして課税なし 議会による政治～予算(課税) 納税者の責任と権利
- ・人民主権 市民社会：法に従う人びとの社会 民主主義：自分が制定した法に従う
- ・人権とは 権利：義務と双対、無条件に主張できる 特権：与え奪う手続きが存在
人権：自然法が認める権利(与え奪う手続きが不在) →制定法の権利でない 平等
- 2) 戦後日本は、民主主義国家だったか
・立法権? 政府提出の法案が多い 法律-政令-通達-行政指導 国会が弱体
- ・司法権? 憲法裁判が減多にない 裁判に時間がかかる→和解・示談・暴力団
- ・行政権? 選挙による政権交代がない 政治家の勉強不足 政策選択肢の不在
- ・ジャーナリズム? 記者クラブ→大本営発表 電通の支配(政府の圧力) 記者の不勉強
- 3) 戦後日本の政治は、なにをやって来たか
・中央/地方格差の是正 米価(農業所得の保証)、地方交付税、補助金・公共事業
- ・産業間格差の是正 輸出産業/中小企業/…… 外国企業の自由参入の阻止
- ・業界内秩序の維持 銀行は潰さない? 護送船団方式(完全競争の排除→非効率)
- ・その手段……為替管理、財政投融资、許認可権限、特殊法人、官業の民業圧迫、……
- 4) 構造改革は、日本を救うか?
・構造問題→非効率→産業空洞化(ユニクロ、カルロス・ゴーン)→景気低迷
- ・バブルはなぜ起こり、なぜはじけた? ∴政府が役割を自覚していない 例) 土地問題
- ・構造改革⇒政府機関に競争原理を 企業～官庁～大学の三角人事 年金・保険一元化
- ・政党に競争原理を(二大政党制) 国民の賢明な投票行動が決め手 →『政治の教室』
- 5) 小泉政権は、いつまで続くか?
・青空の見える緊急対策 例) 奨学ローン5兆円を発表 米欧と緊密協議 外債を発行
- ・オールニッポン・ドリームチームで政策提言 あと10年トンネルが続いていいのか
- ・科学技術創造立国 活力と効率 文化と伝統の重視 自己責任と精神的独立
- ・思想とポリシーのある政策立案 公民権～外国人がよるこんで暮らす日本に

□参考□

橋爪大三郎「政治の教室 または現代政治家の条件」『広告批評』251号(2001年8月)
橋爪大三郎「小泉異常人気と二〇〇一年デモクラシー」『月刊自治研』2001年9月号
橋爪大三郎「小泉内閣以後の日本と亜州」『二十一世紀』2001年10月号(香港中文大)
橋爪大三郎「靖国神社参拝は合憲である」『諸君!』2001年10月号

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。
著書……『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（共著・勁草書房）、『こんなに困った北朝鮮』（メタローグ）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『政治の教室』（PHP新書）ほか多数。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

□1□ 幸福になる？ 幸福をつくる？

幸福は「なる」ものか、「つくる」ものか？ 努力すれば幸福になるわけではない
なりゆき派 努力派 が、不幸にならない努力は必要だ。

幸福の定義（どういうことが幸福？）…決まりはない めいめいの幸福は異なる

ひとの幸福／自分の幸福 幸福をひとと比べても仕方がない

自動車は動けばいい ベンツやクラウンに乗ってどうする
そんな消費社会の価値観にそまっているから、テロ（妬み）がやってくる

幸福な人生を送る、コツがある？ でも幸福には、最低限の条件もある
幸福になる人のパターン、なりそこなうパターンを知っていてもよい
そのうえで、ささやかなことのなかに幸福をみつける感受性を
希望があっていきいきと暮らしている状態を、いかに持続させるか

□2□ 子どもの頃はなぜ幸福だった？

子どもは保護されている（親に依存） 必要なものはすべて与えられる
赤ん坊はなぜ、ニコニコするか～反射～本能（親の勘違い） 目玉に反応
赤ん坊はなぜ泣くか～よくない状態＝不幸せを表現
赤ん坊はなぜ子守歌で眠るか～心音 暴走族のロック⇒胎内回帰願望？

子ども（赤ん坊と、大人のあいだ） 遊ぶ・楽しい・無責任
楽しくなければ、遊びじゃない（脳の発達に必要）
時間を忘れ、我を忘れて遊ぶ
そういうことができるのは、責任がないから 努力もしていない

努力しなくても成長する
子どもは自然に大きくなる 子どもは「希望」そのもの 明日が楽しみ

□3□ 思春期 <子どもでもない、大人でもない>

私って何？ あなたは誰？ 子どもの頃の自明性が消失
男／女の違い（性徴）がはっきりする 遊んでばかりもいられない
進路が分かれる 家庭や状況の違い（現実）が顔をもち上げる
近代社会では、青年期が伸びた 昔は15歳 →高校（18歳）→大学（22歳）→

ファッション・ダイエット・おしゃべり
時間がもったいない～コスト感覚がない～親が学費を払うから
親は学費を払うな 300万人×300万円＝9兆円を貸付け

自分に厳しく、自分に優しく
自分についてのよいイメージ（希望） もっとこうなりたい…… 希望
あるがままの自分に対する悪いイメージ こんな私じゃだめ…… 苦しい？

自分を受け入れなければ、伸びていかない 親が怒ると効果あり

叱られたことのない若者が多い 怒るとなつく 「先生また怒って下さい」

□4□ 仕事をする <どっこい、まだまだ男の世界>

キャリア・ウーマンで頑張るには
この不景気で、就職は大変 でも若い人は給与が安いからチャンスはある
昔はバスの車掌さん、電話交換手 この前まで学校の先生 いまは？
東工大……一生働く覚悟の女性が多い 資格（手に職）×家族の理解×根性

なんで男と差がつくの？
一般企業に入ると、男が威張っている こんなはずではとショックの女性
キャリア志向 ← → 専業主婦 ☆中年実業家
（仕事と家事できりきりまい）（生活水準はぐんと低下） →ひとりの老後30年

例）私の奥さんは中国人～家事はできない～子どもはほっぽらかし

M字型曲線とはなんだ
就職（腰かけ）→退職（結婚・出産）→再就職（パート中心）
欧米ではこのような労働力化率の落ち込みはない
M字型曲線は、その底が持ち上がりつつある（キャリア志向の女性が増えた）

でも、結婚は、「永久就職」ではない（就職の代わりにはならない）

□5□ 結婚する <一生に一度?の大博打>

結婚するには、恋愛をしないとだめ? ★恋愛不平等、結婚平等の法則
恋愛は、生活をともにしないので同時進行でき、短時間でいいので反復できる
恋愛しなくても(恋愛下手の人でも)結婚できる (喜ぶのは早い)

恋人さがし3ヶ月の法則

新入社員がちやほやされてカップルになるのは、3ヶ月まで
会社がだめなら、外を探すしかない……

どうやって相手をみつけるか 相手にも選ぶ権利があるぞ

★美人不幸せの法則 美人は性格が悪い 女の勘違い
1) ねたみ・そねみ 2) 美人はほめられてもツン 3) 男のちやほや
結論~美人は苦勞する

非婚時代
結婚すると生活水準が下がる(損する) → パラサイト・シングルの時代

それなら中年男性が狙い目か 30歳で半分独身 40歳でも20%程度
→これは、さびしい老年を覚悟

ストライク・ゾーンを広くする(少々難ありがちょうどいい)
東工大~合婚したくない大学のナンバーワン~狙い目

結婚しても、安心は禁物 離婚は50%とみるべき

アメリカはなぜ、離婚が多いのか? 愛情に忠実だから ★離婚50%の法則

日本で離婚が少ないのは、家庭内離婚が多いから

□6□ 子どもを育てる <変なところが親に似る>

子どもをかまいすぎ~子どもは幸せになれない

遊びが足りない 遊びは、時間・空間の主人となること(自由にできる)
→大人がみていないこと

公園デビュー!? 子どもの行動を大人がチェック

ほかの子どもと比べない

必要なときには、しっかり叱る 正しい言葉(嘘)、時間(遅刻)、お金(泥棒)

男の子はなぜ、マザコンになるか? 旦那がマザコンで女房をかまわない→子ども
をかまいすぎ→マザコン→…

子どもは私の生き甲斐、ではない 「甘えの構造」

□7□ 熟年を迎える <転ばぬ先のつえ>

ぬれ落ち葉対策 仕事人間・会社人間→退職→脱け殻(地域とのつながりなし)
ふだん一緒にいないから我慢できた
離婚するなら、これがチャンス 男には寝耳に水
「退職金をじっくり眺めたい」→翌朝、奥さんと退職金は消えていた!

介護の苦勞 5人(両方の両親+夫)の面倒をみる

孫の世話 娘は母親のそばに住む~子どもを預ける(便利)~預けられる身
にもなって

熟年の女は忙しい

素敵なおばあさん 例)北朝鮮に行ったおばあさん集団
世界中を回っている

15年は独り暮らし? 男77.64 差は7年
女84.62

→年下の男性は狙い目(介護もしてくれるかも)

□8□ 終わりよければ、すべてよし

年金・保険・老後の蓄え

年金は、貯金と違って、生きているほど得
その年金が頼りにならないと、貯金するしかない
いくらかかるかわからない~自分の不動産、自分の資産を抱えたまま
死んで、相続税にとられるのは無駄
終末医療は300万円

女の一人暮らしは、住む家も困る

まだこれができる・プラス思考

体がきかない
東工大の老人体験

お墓と戒名と相続と

お墓は、どんどん整理されている HPで十分
戒名……こんなものいらない お墓とセット販売
葬式ができない? お坊さんに経を読んでもらわなくていい
子どもに財産は残さないほうがいい
子ども一人~甘え 子ども大勢~ケンカ

婚家の墓に入りたくない「嫁」が多い アメリカは一人にひとつ墓
遺灰をまく自然葬も可能になった

人間は人の世話になりながら生まれ、人の世話になりながら死んでいく

→ 人間が思い上がって、傲慢になり、人生をしくじらないようなよい仕組み

歳をとると、自分で生きていくのに困る

人生の総決算として、周囲にどれだけ、あなたのことを親身に考え心配してくれる人がいるか

子どもであっても友人であっても……

そうした人間のネットワークを財産だと思えるようなら、あなたは幸せものだ。

「心」はあるのか

2001.10.27
橋爪大三郎
(社会学)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論——ヴィトゲンシュタイン・ハート・ルーマン』、『仏教の言説戦略』、『橋爪大三郎コレクションⅠ～Ⅲ』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『橋爪大三郎の社会学講義』、『同2』（夏目書房）、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（共著・勁草書房）、『こんなに困った北朝鮮』（メタローク）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『天皇の戦争責任』（共著、径書房）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『政治の教室』（PHP新書）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版・近刊）ほか多数。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 「心」はどのように論じられてきたか

1) 心理学では……

- ・内観法 Wundt 心は、自分に開かれ他者に閉ざされている→心を自分で観察せよ
- ・行動主義 behaviorism 観察可能で操作可能な概念しか認めない→心ではなく行動
- ・認知科学 cognitive science 心の動きをさまざまな機能に分解→機能をプログラム

2) 哲学では……

- ・意識 Bewusstsein →自己意識 Selbstbewusstsein →同一性 Identität
- ・心身二元論 身体～物体～客観 精神～主観 →身体と精神の関係は??
- ・マインド～頭～理性 ハート～心 理性は人びとに共通で論理的・機械的

3) 宗教では……

- ・ユダヤ教：靈魂は、存在しない 生命～神の息吹き
- ・キリスト教：自由意思は、存在しない 神を信じる～神の恩恵
- ・仏教：自我は、存在しない（法が存在する）

□2□ 人間は、なぜ「心」があると思うのか

1) 「心」がないとは、どのようなことか

- ・他者は、人間のように見えるが、人間であると確かめられない 演技? 機械?
- ・他者は、心をもっていない 自分(私)は、心をもっている(それは確かか?)
→他者が存在し、他者が私と同じ精神活動を行なっていれば、心が存在する。

参考) 橋爪大三郎 1989「社会はどのような空間であるのか」『創文』302:11-14.

2) 独我論 solipsism は可能か

- ・他者や世界の存在は、私の存在ほど自明でない →確実に存在するのは、私だけ
- ・独我論は、反証できない。(だが、検証もできない。)
- ・独我論を「主張する」ことは、矛盾している →独我論は、反論しなくていい

3) 「心」が先か、言葉が先か

- ・言葉が存在するから、他者が存在し、心が存在する(のではないか)
- ・チューリング・テスト(相手が機械か、人間・知能であるかを判定) cf精神医学
- ・確実にここ(そこ)にあり、他者とわかちあえるのは行為(言葉)である。

□3□ なぜ、言葉は通じるのか

1) 言葉が意味をもつことは、根拠づけられるか

- ・ある言語が意味をもつことを、その言語で説明しても無益である cf異星間交信など
- ・ある言語が意味をもつことを、ほかの言語で説明しても無益である cf解説、翻訳
- ・言語が意味をもつことは、ただ「理解」するしかない 「考えるな、見よ」

2) 言葉が意味をもつのは、なぜなのか

- ・言葉は、ルールにもとづく記号列 ルールはそこにある(ルールの記述とは異なる)
- ・言葉が意味をもつのは、それが「理解」できるから (理解は理解の説明とは異なる)
- ・言葉=数列 2, 4, 6, 8, 10, ……(以下同様) ルール=以下同様(ずっと続けられる)

3) 言葉はなぜ、「心」をうみだすのか

- ・言葉は、自分にとって(だけ)開かれていることを、他者にとって(だけ)開かれていることと、同じ言葉に置き換え、交換する cf言語は「私的言語」でない
- ・「心」：めいめいが、めいめいに(だけ)開かれている領域をもつことを承認する

□4□ 人間はどのような存在なのか

1) 人間を殺してはいけないのか

- ・人を殺す/殺さない → 殺し方の違い(事故/自衛/戦争/殺人/テロ・虐殺)
- ・他者の存在(生存)は、社会～ルール～言語ゲームの「前提」である
- ・人間～身体～行為～言葉 他者の身体を保全し、行為や言葉を理解するのが社会

2) 人間はどのように、互いに関係するのか

- ・人間の相互関係の三つの様式 身体-身体; 身体-形式-身体; 身体-……-身体
- ・形式(言語)は身体とその関係を構造化する 身体が先にある、のではない
- ・人間は、このように成立した空間(社会)のなかに生み出され、生きる。

3) 社会はどのような空間であるのか

- ・社会は、身体の交代に関わらず、(相対的に)不変 → 社会は「実在」する
- ・言語は、身体に帰属するのではなく、社会に帰属する 社会空間の作用素
- ・言語を中心に社会を再構成する立場: 言語派 自然の因果関係+言語・性・権力

(今後の予定)

第2回 言語ゲームとは何か/言語ゲームは価値相対主義か/言語ゲームと「心」の働き
/言語ゲームと人間のなりたち

第3回 性と愛/言葉と倫理/言葉と表現/なぜ「心」が問題となるのか

「心」はあるのか



2001. 11. 3
橋爪大三郎
(社会学)

□5□ 言語ゲームとはなにか

1) ヴィットゲンシュタイン (Ludwig Wittgenstein 1889-1951) とは何か

- ・世紀末ウィーンの富裕なユダヤ人家庭に生まれる
- ・厳格な父、音楽好きの母
- ・家庭教師で勉強→リンツの工業高校
- ・三人の兄がつぎつぎ自殺
- ・機械好き
- ・オペラ製作→数学→数学基礎論→哲学に興味、ケンブリッジにラッセルを訪ねる
- ・第一次大戦に志願、『論考』の草稿を書く
- ・『論考』出版、学問に興味を失う
- ・小学校教師→庭師→姉の邸宅設計
- ・ケンブリッジに戻り、セミナーを開始
- ・英国籍取得
- ・第二次大戦で病院で働く
- ・教授辞職
- ・『探究』遂行
- ・癌で死亡

2) 『論理哲学論考』の世界 —— 写像理論 ——

- ・言葉 (= 思考) をしっかり世界 (= 意味) につなぎとめておくには?
言語命名説 (世界が元、言語が派生) も、その逆 (言語が元、世界が派生) もダメ
- ・ 1 世界とは、かくあることのすべてである。

1.1 世界は、事物ではなく、事実の全体である。

独我論 solipsism

...

2 かくあること、すなわち事実とは、事態が存立していることである。

3 諸事実の論理的な写像が、思考である。

4 思考とは、有意義な命題である。

5 およそ命題は、要素命題の真理関数である。

6 真理関数の一般形は、 $[p, \varepsilon, N(\varepsilon)]$ である。

7 語りえぬことについては、沈黙しなければならぬ。



1) 世界は、分析可能である。

2) 言語は、分析可能である。

3) 世界と言語とは、一対一に対応している。

4) 以上(1)~(3)以外は、言表不能=思考不能である。

(疑問)

言語は世界に言及する
言語は言語に言及しない
としたら、
『論考』はどういう言語
なのだろう??

3) 言語ゲーム language game のアイデア

- ・言語は分析可能でない? 例) 要素命題は存在しない この薔薇は赤だ→黒でない
- ・言語と世界を対応させる手続きは存在する? 例) 直示的定義 (これは椅子) は不能
- ・言語の意味は、用法を観察して「理解」するしかないのでは?
石工と助手/石aと石b (二人二語モデル……最単純言語ゲーム)

□6□ 言語ゲームは、価値相対主義か

1) 社会は、さまざまな言語ゲームの渦巻きである。

- ・言語ゲームは、「あるルール (規則) に従った、人びとの行為の秩序ある集まり」。
- ・宗教の、貨幣の、法の、科学の、……の、言語ゲーム
- ・ある言語ゲームのなかでは、その前提が「実在」し始める 例) 紙切れ→貨幣

2) 社会は、価値 (大事なこと) と意味 (そのわけ) に満ちている

- ・人間は、任意のどんな言語ゲームの外にも出ることができる
- ・それでも人間は、どれかの言語ゲームの内に入っていなければならない
- ・ポストモダン、近代 (という言語ゲーム) の外に出るというが、それならどこに属しているのか? (Th. 価値相対主義は、相対主義という名の価値絶対主義である)

3) 内的視点 (価値・規範) と外的視点 (事実)

- ・言語ゲームは外から視れば、「人びとがそういう行為をしている」という単なる事実
- ・言語ゲームは内から視れば、「そのルールには従わなければならない」という規範
カント以来の事実/規範の二元論ではなしに、言語ゲームは一元論で人間を捉える

□7□ 言語ゲームと、「心」のはたらき

1) 感覚

- ・逆スペクトルの懐疑 (あなたの赤~青は私の青~赤) 色の美悪は「ふるまいの一致」
- ・痛みの行動主義: 痛いから「痛い」と言うのではない、「痛い」と言うから痛いのだ
- ・言葉を覚えることで感覚が存在しはじめる Q 動物は痛いのか? うい? は話すか?

2) アスペクト

- ・うさぎ~アヒルの図 アスペクト (見方) はそこにある? 内面にある?
- ・異なる理解~規則vs奇則 クリプキのルール懐疑主義 plus/quus blue/grue
- ・「ふるまいの一致」(ルールの実在) とは、今までのところ不一致でないということ

3) 自由・意図・欲望

- ・なぜ人びとは、「自由」に行為すると考えるのか ルールに従っていても、逸脱自由
- ・なぜ人びとは、まだ実現していない「将来」を考えるのか 予測/期待/意図
- ・なぜ人びとは、自分が何かを「望んでいる」と考えるのか 欲望は確かに存在する?

□8□ 言語ゲームと、人間のなりたち

1) 自己への信頼

- ・懐疑の言語ゲーム 何ごとかを疑うためには、何ごとかを信頼しなければならない
- ・人間は、自分について何を確かだと信じているのか? 確かな何か~自分~同一性

2) 名前と人格

- ・人びとは社会 (言語ゲームの渦巻き) のなかで、それぞれ異なった場所を占める
- ・異なった豊かな内容は、異なった単純な形式によって区別されるしかない → 名前
- ・名前によって、他者の人格が、あらわな輪郭をもつ 自分の人格は輪郭を持たない

3) 靈魂

- ・他者の人格の連続性 (心) が、他者の実在を離れて私にあり続ける → 靈魂
- ・他者に靈魂があるのなら、自分にも靈魂がなければならない
- ・自分に靈魂があるのなら、自分に靈魂ではないもの (肉体) がなければならない

(参考)

クリプキ『ウィットゲンシュタインのパラドックス』産業図書

橋爪大三郎『言語ゲームと社会理論——ヴィットゲンシュタイン・ハート・ルーマン』勁草書房、1985

橋爪大三郎『仏教の言説戦略』勁草書房、1986

「心」はあるのか

2001. 11. 10
橋爪大三郎
(社会学)

□9□ 性と愛

- 1) 愛しているから「愛している」と言うのか
 - ・言語ゲーム⇔行動主義(「痛い」と言うから痛い) ふるまい(用法)の一致
 - ・「愛している」というから愛している cf. 遂行文 performative sentence
 - ・感覚ばかりでなく、意図intentionや内面は、それを表現するふるまいとともにある
- 2) 性別と身体
 - ・性：身体-身体 身体同士が、直接に関わる領域
 - ・言語：身体-形式-身体 身体同士が間接的に、意味を介して関わる領域
 - ・「猥褻の分離公理」……言語が意味を共有する“公然”の空間を、性がそれと区別され“秘匿”される空間をつくり出す 性愛⇔互いの身体感覚を標的とする相互行為
 - ・性別：性と性愛に関わる役割を予期させる類別 母⇔産む機能 女⇔母と同性 cf. 「遠隔対称性」(吉本隆明『共同幻想論』ほか) 男⇔母と異性 ∴遠隔を志向
 - ・性別のゲーム →性愛のゲーム →親族のゲーム →愛情のゲーム
- 3) 告白と主体
 - ・フーコーのテーゼ「告白は内面と主体をつくり出す」 罪の告白⇔性の告白
 - ・言葉(公然)の世界から隔てられ秘匿されているのは、自己身体に関する(性)関係 ∴人間は自由な意志をもつ⇔自由の基盤は身体⇔自身体への関係は直接⇔性関係
 - ・個人(主体)は、心をそなえた実体ではない。告白や遂行や言語のなかで結ばれる仮像にすぎない(のではないか)。

□10□ 言葉と倫理

- 1) 嘘
 - ・任意の出来事について、嘘をつくことができる →どんな言葉も、正しい証拠がない
 - ・すべての出来事について嘘をつくことはできない ∴その場合、言語は存在理由なし
 - ・言葉を話す以上、かなりの部分は嘘ではない →言葉の背後に真実の領域あり →心
- 2) 約束はなぜ守るべきなのか
 - ・約束：ある事態を生じさせる意志の言葉による表明 言葉にあわせて行為する
 - ・すべての約束が嘘であることはありえない →誠実さ →意図や意志は現実となる
 - ・人びとの意志は現実を構成する 言葉が現実を構築し人びとを拘束することの信頼 cf. ハート『法の概念』みすず書房
- 3) 法と道徳
 - ・法：責務 obligation を課すルールという言葉による表明 言葉にあわせて行為する
 - ・社会はこのようであればならないという強固な集合的意志が、法を背後で支える
 - ・道徳：行為の自由(選択肢)のあいだにはたらく望ましさの磁場 法をはみ出る道徳は、法ではない 個々人の内面に、「善」の場所を用意する多様性

□11□ 言葉と表現

- 1) 歌と詩 cf. 吉本隆明『言語にとって美とは何か』
 - ・言語の美的な機能 繰り返し語りたい、聞きたい →定型(反復されるパターン)
 - ・歌：声の可塑性を基礎に表現される言葉の美 歌が共有され、情緒が共有される 歌ははじめ伝承だった⇔コスモロジ⇔個性は集合的心性のなかに溶解して定着
 - ・詩：個的な世界を言葉の美として実現 詩が創作され、心が個別化する 文字⇔時間・空間を特定して出来事を記録し陳述する手段→個性の可視化 アモス書

2) 演劇(虚構)

- ・演劇：現実からある状況、役割、人格を抽出して再現する 背景はコスモロジ 再現される行為(演技)の背後に、心(内面)を観て共有する ただし心はない
- ・物語→文学：言葉によってある状況、役割、人格を創出する そこに心を読む
- ・心のリテラシー 人為的な演劇や文学で、人びとは純化した心を読解する力を高める

3) 自分を語る制度

- ・自己の成り立ち 役割や関係や集団や組織の結節点として、社会的自己はある 自己が自己であることに責任をもつこと 誠実性 理解 責務 →誓い
- ・言葉は、自己のありかたを不断に明らかにするツール あわせて他者を語る
- ・大勢の前で/内輪の前で/自分にだけ/神の前で、自分を語る どれが本当? 言葉は絶えず相互に参照し、修正され、更新してどこまでも続いていく 自己はそれにもかかわらず語り切れないものとして、言葉をすり抜ける →告白

□12□ なぜ「心」が問題になるのか

1) 教育の戦略

- ・教育：次の世代の思考と行動様式を再生産すること 社会は行動様式と、それに対応する内面をもつとされている 上の世代の懐疑…若い世代は心を学んだか?
- ・教育はしばしば心に照準し、どう行動様式のみを学んでも不十分だとする →権威
- ・社会の違いに応じて、教育も異なる 共同体に参入(成人式型) 身分に適応 職能に適応 組織に適応(学校教育)

2) 規律訓練と「心」

- ・学校教育 汎用性の高い思考と行動様式を獲得すること 職業と厳密に対応せず 青年期の延長 知識格差の生産 画一性(軍隊と相似)⇔学年・カリキュラム・成績
- ・学校教育は、世俗的で、しかもそこで行なわれる教育自体が自己目的化する →そこで照準される「心」は、宗教ともコスモロジとも結びつかない →個的な差異
- ・学校教育は、画一的な社会のなかで、個的な差異としてある自分はなにかという問いをうむ →その答えは与えられない →高校全入段階でこの問いは普遍化(☆)

3) 「心」はあるのか

- ・心は「心」そのものとしてはありえない その表出(言葉、行為)としてのみある
- ・心は、理解されるときそこに(その表出において)ある 数列の「……」と同じ
- ・心は、それを理解するもうひとつの心に対して現れる 心のネットワーク
- ・心の対称と非対称 他者の心は、他者の外形の背後に隠れている 自分の心は、世界の客観へと連続している(隠れていない) この二つを、同じ心と呼ぶのは、「心の言語ゲーム」においてのみ可能なのでは?
- ・前項の問い(☆)は、そのものとしては答えられない。その問いを生み出した社会的文脈を理解するとき、別な問いにかたちを変えて解消する(しかないのでは?)

参考文献

橋爪大三郎 1995 『性愛論』岩波書店

橋爪大三郎 1993 『性空間論(橋爪大三郎コレクションⅢ)』勁草書房

言葉はみんなのものなのだ

□0□ まえおき

八木亜希子さん、吉本隆明さん、糸井重里さん、という言葉の達人がお集まりです
そこへ私が、なぜ呼ばれたのか
たぶん、言葉と人間と社会の関係を考える社会学を、ずっとやっているからでは？

□1□ 講演の題について

「言葉はみんなのものなのだ」と題して、お話しします
イベントのタイトル、「言葉はだれのものなのか」は疑問形でしょう 答えないと
そこでとっさに答えがうかんだ、「言葉はみんなのもの」
それに、ここは「都の西北、早稲田のとなり」のバカ田大学も近い新宿なので
赤塚不二夫さんに敬意を表して、「なのだ」とつけました

□2□ 言葉は誰のものか

自分で言葉を作った人（発明した人）はいますか？ いまません
言葉は私のもの（考え）、と言えないこともない でも見えない
その言葉を、言ってみる すると見える でも、出て行ってしまう（話す＝離す）
その結果、ほかの人のものになる 私もそうやって言葉を手に入れた
言葉は、人と人のあいだを行ったり来たりしている いわば公共財
だから、みんなのものなのだ。 はい、おしまい、でもかまわない

□3□ 最初にだれが、言葉をつかったのか

私が生まれたときから、もう言葉はあった じゃあ、その言葉はいつからあった
最初に言葉を話した人間がいたはずだ （言葉は、その人のものだ）
吉本隆明さんによると、その人は、海をみて「う」と言った
なぜ吉本さんは、知っている？ たぶん「う」と言った彼の、直系の子孫なのでしょう
海をみて「う」と言った 深いですね 空をみて「そ」と言ったのではない
シュールですね さすがですね 糸井さんも真っ青のコピーですね
で、その彼はどうしたか
「う」「う」とみんなに言ったに違いない
でも、海をみて「う」なのか、馬をみて「う」なのか、うんちがしたくて「う」なのか
何が言いたいのかなあ 何のことなのかなあ みんな???ですね
何が言いたいのかを「自己表出」、何のことなのかを「指示表出」と言います
ここから文学が始まった 『言語にとって美とはなにか』のすばらしい説です

□4□ 言葉は、いっぺんにできたのか

でもね、海をみて「う」と言ったというのは、見てきたような嘘だと思う
「う」だけじゃ、言葉とは言えない
言葉は、いくつも言葉があつまったシステムなんです
名詞（ものの名前）がある 動詞（できごと）がある 形容詞（感覚）がある
言葉は、いっぺんにできた
それと一緒に、知性ができた
言葉をつかう知性を、人間というのです
ここで、私の個人的な疑問
いま私たちが使っている言葉より、簡単な言葉のシステムがあるんだろうか？
あるような気もするが、証拠がない
とりあえず、言葉を覚えてたのゼロ歳児、ぼけ老人、精神病の人などはどうか
ちょっとは調べてみました
参考にはなるけれど、安定した言葉のやりとりをしていない
直立猿人から、原人、旧人、新人と、数百万年もかかった
その間、石器はだんだん、進歩していったという
だから、もっと簡単な言葉のシステムが、用いられていたような気がする
それを、人工的につukれないかなあ
品詞はあるだろう 文法はどうなっているか どういうふうに簡単なのか？
いまの人工知能は、いきなりいまの人間の言葉を真似させている
簡単な言葉のシステムがあれば、アイボに覚えさせて、実用化できるし
私は、『猿が人間になるにあたっての、言葉の役割』という本が書けるし

□5□ 結論

さて、いきなり結論ですが
「みんなが、言葉を共有する」のじゃなくて、ほんとうは、
「言葉を共有するから、みんなになる」のですね
言葉がなければ、世界もない、社会もない、みんなもない
私の人生もない
もちろん、「ほぼ日ブックス」もない
言葉は、わからないと、理解されないと、みんなのものにならない
わからない言葉は、警戒しよう、みんなを分断するから
わたらない言葉をふりまわす人は、警戒しよう、権力をうみだすから
わからない言葉を、とことん追い詰めて解体しよう、みんなをつくり出すために
と、最後にスローガンをのべてしまいました
おしまい

埼玉県・高校
社会科学研究会
於：久喜高校

幸福のつくりかた

～ 不幸な学校と社会を越えて ～

~~~~~

2001. 11. 6  
橋爪大三郎  
(社会学)

### □0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書 ……『言語ゲームと社会理論——ヴィトゲンシュタイン・ハート・ルーマン』『仏教の言説戦略』『橋爪大三郎コレクションⅠ～Ⅲ』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『研究開国』（共編著、富士通ブックス）、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（共著・勁草書房）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『天皇の戦争責任』（共著、径書房）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『政治の教室』（PHP新書）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版・近刊）ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

### □1□ 言語派社会学とはなにか

- 1) 言語は、個々人の生き死にをのり越えて、存在し続ける実体 ⇨ 言語≡社会
  - ・言語は、誰が生まれたときにも、もうそこにある 誰が死んでも、あり続ける
  - ・言語は、人間の思考と行為のOS（基本ソフト）である 言語は個人の存立の基盤
  - ・「個々人が実体で、社会はその総和」でなく、「言語が実体で、個々人はその効果」
- 2) 言語派社会学は、近代主義（たとえば、戦後民主主義）と、どう違うか
  - ・近代主義は、近代的価値（自由、人権）を実体視し、言語派社会学は制度とみなす
  - ・言語派社会学は、近代主義だが、古代主義、中世主義でもある（∵言語の連続性）
- 3) 言語派社会学は、価値相対主義（たとえば、ポストモダン）と、どう違うか
  - ・ポストモダンは近代的価値を構築された制度として相対化 自分の価値は示さない
  - ・言語派社会学は、人間の根本条件たる言語に立脚 どれかの価値に内属する必然
  - ・言語派社会学は、現行の近代的価値を内側から擁護する 相対主義的絶対主義

### □2□ 幸福をつくるために

- 1) 幸福は、定義するのがむずかしい 人それぞれ／自覚できない／比較できない
  - ・幸福とは、平凡で退屈なもの →そうかもしれない 到達点でなくプロセスが幸福
  - ・不幸はイメージしやすい かけがえないものが奪われる 例）健康、財産、家族…
  - ・幸福は想像力のなかにある 不幸をいかに回避したか 幸福のため努力したか
- 2) 依存する幸福、自立する誇り
  - ・子どもは幸福 ∵依存しているから 退嬰的回帰願望 vs 成長・成熟
  - ・自由（やりたいことができる）～解放感～達成感 「自我」の拡大と、他者の幸福
  - ・平等と公平 エゴ（自分さえ幸福ならいい）から、相互承認（他者への配慮）へ
- 3) 自己決定、自己責任 自立した個人の幸福とは
  - ・自由～選択肢～意思決定 何かを選択することは何かを断念すること →リスク
  - ・自分のことを自分で決定したければ、結果のリスク（不幸）を負わなければならない
  - ・“自己決定した不幸＞お仕着せの幸福”が成立するなら、それはレヴェルの高い幸福

### □3□ 幸福のつくりかた

- 1) 幸福をつくるための経済 ……自由主義
  - ・職業選択の自由～労働市場～個々人が適性を活かして働く～自立・自営or安定・束縛
  - ・夢～起業・結社の自由～分権的～競争的～効率的～努力が報われる社会 プロの誇り
  - ・職をわかちあうメカニズム～ジョブ・シェアリング～NPO 転職・再就職支援
- 2) 幸福をつくるための政治 ……民主主義
  - ・草の根民主主義～候補者・政策を手づくりする～有権者の自治～政党は支援組織
  - ・納税者の自己責任～地方分権～財政的自立～補助金（地方交付税・特殊法人）廃止
  - ・政府は、有権者が自立するためのツール 権力（責任）をもつことを恐れない
- 3) 幸福をつくるための社会 ……個人主義
  - ・多様性の承認（自分と他人は同じでなくていい） 多文化主義 法のもとの平等
  - ・公共性の樹立 自由を支える義務 立法者の矜持（根拠のない拘束には従わない）
  - ・自分の選んだ人生を送る権利～他人が選んだ人生を尊重する義務～連帯としての社会
  - ・無条件に支えあう場としてのコミュニティ 家族～地域社会～グループ～安全ネット

### □4□ 選択・責任・連帯の教育改革とはなにか

- 1) 小・中学校の改革
  - ・学区制の廃止～選択の自由～公立学校の競争的環境 競争は自由社会の原則
  - ・校長に学校経営権を 人事権・予算権・カリキュラム権 教師集団の連帯を形成
  - ・学校理事会の監督権 第三者評価を参考に 校長の説明責任 地域社会の再構築
  - ☆基礎学力を確認するための第三者テスト（学校単位の達成度評価）
- 2) 高校の改革
  - ・高校入試を廃止 ×行き過ぎ進路指導→偏差値輪切り ×受験・内申書の害悪
  - ・高等学校学力検定試験（高検）導入 学力保証を目標に 教師～生徒の連帯
  - ・学校教育と学校外教育とを統合する 塾・予備校→廃止 資格評価の多様化
  - ☆学力を証明するための第三者テスト（資格試験） 多教科の多段階テスト
- 3) 大学の改革
  - ・大学入試の廃止 学力保証と書類選考 進級・卒業を厳格に 大学評価の多様化
  - ・学費値上げと奨学ローン・奨学金の拡充 奨学金は大学の成績連動（下図参照）
  - 学費は親でなく本人が払う 300万円×300万人＝9兆円の減税効果
  - ・研究開国 研究費の競争化 研究ポストのオープン化（外国人を含むすべての人に）
  - ☆専門能力を証明するための第三者テスト（資格試験）



日本工業倶楽部

木曜講演会

於：同倶楽部講堂

(新丸ビル4F)

## 憲法改正問題を考える

——『僕の憲法草案』——

2001. 11. 8

橋爪大三郎

(社会学)

## □0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論——ヴィトゲンシュタイン・ハート・ルーマン』『仏教の言説戦略』『橋爪大三郎コレクションⅠ～Ⅲ』（以上、勁草書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『僕の憲法草案』（共著、ポット出版）、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（共著・勁草書房）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『天皇の戦争責任』（共著、径書房）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『政治の教室』（PHP新書）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版・近刊）ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

## □1□ 平和憲法？ 押しつけ憲法？

- 1) 「価値ある憲法」であること、「押しつけ憲法」であることは両立する
  - ・「臣民の権利および義務」（実定法下での権利）→基本的人権（自然権）
  - ・憲法第九条+日米安保条約 垂直的（片務的）同盟関係 “対米従属”
  - ・自衛隊～軍隊ではない～個別自衛権～「……戦争と……武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」 放棄するからには、権利があった
- 2) 三島由紀夫の「檄」は、どういう論理構成か？
  - ・盾の会と自衛隊は仲間→新宿騒乱でも自衛隊の出番なし→戦後日本に自衛隊の誇りなし→自衛隊は憲法違反→自衛隊は決起して国軍となれ→待っても決起せず→自決（？）
  - ・仮に決起すれば……クーデター（憲法停止）→戒厳令+憲法停止+臨時軍政府→？
- 3) 戦後日本のダブル・バインド（江藤淳 vs 加藤典洋）
  - ・押しつけでない→8月13日革命説 / 押しつけである→自主憲法制定
  - ・占領軍のマインド・コントロール（証拠を残さぬ検閲）→戦後言論空間の歪み  
三島のいらだちは、ダブル・バインドの解消を志向（代わりの憲法構想はなし）
  - ・押しつけられた民主主義でも、アメリカをたしなめる程になれば本物だ（加藤）  
ねじれは解消できない、ねじれたままつながっていればいい

## □2□ 憲法第九条と「解釈改憲」

## 1) 護憲平和勢力の論理構造

- ・日本国憲法（第九条）が禁じているから、戦争や海外派兵はできない ⇨では、憲法が禁じていなければかまわないのか？ 日米安保～戦争巻き込まれ論
- ・“日本が戦争しなければ平和” ……日本が戦争を主導した大東亜戦争と同じ発想

## 2) 靖国神社とA級戦犯合祀

- ・戦前：神道は宗教でない。靖国神社は「国事殉難者」の霊を祀る、陸海軍および内務省所管の国家機関。誰の霊を合祀するかは、各省から名簿が届いた。
- ・戦後：靖国神社は宗教法人となる。厚生省・地方自治体が名簿作成に協力。政教分離。  
⇨義務（公務）として戦争を担った父祖を、戦後の国民が哀悼する方法がない
- ・A級戦犯：公務執行者の遡及法による処罰／戦勝国に対する条約上の義務

## 3) 湾岸戦争と「普通の国」論

- ・国連は戦勝国による戦後秩序で、集団的自衛権を認めている →第九条と矛盾
- ・国連決議と多国籍軍の編成～侵略に対する制裁～貢献の義務／第九条～武力行使不可
- ・安全保障の現実（力の均衡）と平和憲法の非現実性の矛盾があらわになった

## □3□ 「同時テロ」事件以後の、安全保障と憲法

## 1) 憲法と安全保障

- ・主権国家の憲法は、軍隊の組織と軍事指揮権を明記 →安全保障の主体と責任
- ・日本国憲法は、軍隊の規定なし →他国の軍隊と共同行動をとることに制約
- ・日米安保～正規戦を想定～アメリカの集団的自衛権+日本の個別自衛権
- ・解釈改憲は、憲法を空洞化～不健全 →内容はともかく憲法改正を ex前文が変わる

## 2) 「テロ特別措置法」と集団的自衛権

- ・新ガイドライン……「周辺事態」に出動する米軍を後方支援～後方＝非戦闘地域
- ・テロ特措法……テロ支援国家に対する米軍の自衛戦争を支援 ⇨集団的自衛権（！）
- ・テロはなぜ憎むべきなのか 日本人は殺さない／殺すの違いのみ重視。しかしキリスト教文明は、過失／戦争／処刑／殺人／虐殺&テロ、の順に悪の度合いを区別。

## 3) 「同時テロ」事件以後の国際秩序と、日本の安全保障

- ・軍事革命（RMA）……消耗戦から麻痺戦へ 敵主力を破壊せず無能化～コンピュータ制御の弱点～同時多発的に精密・適時の攻撃～前線／後方、軍事／民間の差異消滅
- ・テロ&テロ支援国家 vs 主権国家連合 テロに対して戦争で対抗→日本の役割？
- ・テロは主権国家連合に対抗 →日本の危機管理能力がなければ、テロの標的に
- ・テロ防止の主権国家連合は、集団的自衛権にもとづく ⇨第九条改正はセキュリティ問題

## ALTERNATIVE CEREMONIES FOR BUDDHIST FAMILY

Dec.10 2001 D. Hashizume

## Current Situations

- \* A lot of people are forced to pay a huge amount of money to purchase holy names for the dead, to have funerals and memorial services conducted by Buddhist priests, and to bury the ash of the dead in the tombs in temple yards.
- \* These formalities are not prescribed in any holy text, though they are prevailing and regarded as traditional.
- \* Thus these ceremonies are costful, meaningless, and superficial, and leave family members and friend of the dead unsatisfied. Alternative ceremonies are needed.

## Concepts of Alternative Ceremonies

- \* Ceremonies can be held at home, or in any meeting room, by family members and/or friends themselves.
- \* They are simple, less expensive, but warm-hearted.
- \* Everybody has some chance or role to contribute to the ceremony. It is organized to renew the good memory of the dead. It reinforces the sympathy and friendship of the people who is still missing the dead.
- \* Family members give a holy name to the dead, if necessary, moderate a ceremony, give speeches, conduct rituals by themselves.
- \* There should be a book which serves as a manual for family members to conduct all these ceremonies. It gives a simple explanation of basic Buddhist principles as well as differences between Buddhist sects, which enables those who have no experience nor knowledge to organize ceremonies.

## Contents

(Alternative Ceremonies for Buddhist Family)

『家族でできる葬儀と法事マニュアル』

## Introduction

## Chapter 1 Understanding Death through Buddhist Philosophy

- 1-1 What Buddha Said on Death
- 1-2 How Buddha himself Accepted His Death
- 1-3 Positive Attitudes in Life as Mahayana Buddhists

## Chapter 2 Creating Rituals by Family Members and Friends

- 2-1 Holy Names are not Authentic in Buddhist Cannons
- 2-2 Short History of Buddhism in India, China, and Japan
- 2-3 Dogmas and Doctrines of Respective Buddhist Sects

## Chapter 3 Basic Concepts of Alternative Ceremony

- 3-1 Buddhist Priests are not necessary for Ceremonies
- 3-2 Funeral and Memorial Ceremonies of Our Own Hand-made
- 3-3 Selection of the Holy Texts and their Translation
- 3-4 Places and Occasions to be Chosen

## Chapter 4 Organizing Ceremonies

- 4-1 Invitation Card
- 4-2 Master of Ceremony
- 4-3 Clothes
- 4-4 Decorations
- 4-5 Opening Remarks
- 4-6 Key Note Speech
- 4-7 Reading Buddhist Texts (in Japanese)
- 4-8 Songs and Music (Instruments)
- 4-9 Rituals (incense)
- 4-10 Speeches
- 4-11 Ending Remarks
- 4-12 Memorial Dinner
- 4-13 Gifts

## Conclusion

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論——ヴィトゲンシュタイン・ハート・ルーマン』『仏教の言説戦略』『橋爪大三郎コレクションⅠ～Ⅲ』(以上、勁草書房)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『僕の憲法草案』(共著、ポット出版)、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』(共著、勁草書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『天皇の戦争責任』(共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著、廣済堂出版)ほか。

http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/

□1□ 「同時多発テロ」以後の、安全保障と国際秩序

1) 日本国憲法下の安全保障

- ・主権国家の憲法は、軍隊の組織と軍事指揮権を明記 →安全保障の主体と責任
- ・日本国憲法は、軍隊の規定なし →他国の軍隊と共同行動をとることに制約
- ・日米安保～正規戦を想定～アメリカの集団的自衛権+日本の個別自衛権
- ・解釈改憲は憲法を空洞化～「違憲合法」状態～法的に警察と同じなのに有事法制なし

2) 「テロ特別措置法」と集団的自衛権

- ・新ガイドライン……「周辺事態」に出動する米軍を後方支援～後方＝非戦闘地域  
周辺事態：そのまま放置するとわが国の安全に重大な影響を及ぼす、周辺地域の事態
- ・テロ特措法……テロ支援国家に対する米軍の自衛戦争を支援 →集団的自衛権(!)
- ・テロをなぜ憎むのか 日本人は殺さない/殺すの違いのみ重視。しかしキリスト教文明は、過失/正当防衛/戦争/処刑/殺人/虐殺&テロ、の順に悪の度合いを区別

3) 「同時テロ」事件以後の国際秩序と、日本の安全保障

- ・軍事革命(RMA)……消耗戦から麻痺戦へ 敵主力を破壊せず無能化～コンピュータ制御の弱点～同時多発的に精密・適時の攻撃～前線/後方、軍事/民間の差異消滅
- ・テロ&テロ支援国家 vs 主権国家連合 テロに対して戦争で対抗→日本の役割?
- ・テロは主権国家連合に対抗 →日本の危機管理能力がなければ、テロの標的に
- ・テロ防止の主権国家連合は、集団的自衛権にもとづく →第九条改正はセキュリティ問題

□2□ 小泉政権と、改革の課題

1) 小泉政権のねじれ構造 郵政民営化＝「改革派」のアイデンティティ

- ・異常に高い支持率 その内訳 85%＝自民党支持35%+無党派(反自民)50%  
七福神効果：田中外相(反橋本)、塩川財相(枯れた味)、竹中大臣(やんちゃ坊主)
- ・離党カード 田原氏によると、小泉氏は総裁選で負け、離党→新党を考えていた

2) 待ったなし経済政策 国債30兆円は、守れるのか

- ・景気対策/構造改革の矛盾 景気刺激～有効需要創出～歳出増/構造改革～歳出減  
補正予算(短期の対策)/概算要求(長期目標)がばらばら 日米同時不況?
- ・土建国家は、「ケインズ政策の失敗」でない ケインズ：「赤字国債は緊急非難」
- ・不良債権とは 銀行の貸付け問題と考えるな 過剰設備、無駄な公共投資のツケ
- ・経済政策の矛盾を克服するのは、一国経済→世界経済への発想の転換 →日本エイド

3) 安全保障と日米関係 ブッシュ政権が小泉政権を支持するのはなぜか

- ・日米ガイドライン改定(97) 「周辺事態」～台湾海峡は入るのか? 対中抑止力
- ・MD(ミサイル防衛)＝TMD(戦域……)+NMD(本土……) →集団自衛権!
- ・下降するアメリカ経済&台頭するアジア ⇨欧日との連携・ハイテク戦力・封じ込め

4) 歴史と教科書の問題 なぜ小泉首相は靖国神社参拝にこだわったか

- ・教科書問題 韓国・中国は国定教科書 隣国条項の悔恨 民主主義の原則  
政府は教科書の当事者でない いろんな見解や教科書があるのは可 民間の努力
- ・靖国神社≠戦争神社 神道は宗教でない?!→神道指令 靖国神社は墓地でない  
「A級戦犯＝悪＝参拝不可」は思考停止 英霊を靖国神社が独占 問題の解決とは?

5) 構造改革は成功するか

- ・小泉内閣の第二幕(官邸の巻き返し) 道路公団民営化～トバダウ 党事前審査の見直し
- ・構造改革＝リバタリアン政策＝反補助金・福祉＝反「公明党+自民抵抗勢力+社民党」  
リバタリアン……経済的自由を重視(＝保守主義)&個人の自由を重視(＝リベラル)
- ・日本政府そのものが特殊法人 例)特別会計：予算の原則が適用されない

□3□ 21世紀、日本は復活できるか

1) 日本の21世紀戦略 ～文化の創造的価値を重視

- ・「科学技術創造立国」路線 独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
- ・国際分業のなかに活路を見出す 日本市場→世界市場 企業行動の世界標準化
- ・「人民」のための政府・制度・社会の建設を! 無党派の時代・選択の時代

2) 政治の改革 ～意思決定力の強化

- ・国会の機能強化 次点歳費制(議員を半分に) 調査・立法機能の充実
- ・中央省庁の権限縮小・簡素化・規制撤廃 特殊法人の廃止・民営化 人事異動促進
- ・地方政府の自立 財源(たとえば消費税)を移管して交付税を廃止 委任事務廃止

3) 企業社会の改革 ～経済体質の強化

- ・戦後社会は、資本主義でなかった! 配当が低い＝株主不在/累進課税/資産課税  
⇨持株会社の復活 ベンチャー企業育成(自由競争、間接金融)
- ・入り口文化、年次別管理からの脱却 インターンシップ/年俸制/転職の自由

4) 教育の改革 ～新しいタイプの日本人形成を

- ・小中学校：学区制の廃止、校長に経営権(含人事権)を、学校理事会の設置
- ・高校：入試廃止、高検(高等学校学力検定試験)の導入、個人カリキュラムの編成
- ・大学：入試廃止、学費アップ×奨学ローン×大学ごとの奨学金、研究ポスト公開

5) 東アジア国家としての再出発

- ・公民権制度を導入 →在日外国人を日本社会の正規メンバーに →統一コリアに対応
- ・歴史と向き合う国民 学生交流、民間対話、史跡訪問、芸術作品助成、……
- ・アジア諸国共存のための国際秩序を アメリカのプレゼンスを重視しよう

6) 明瞭な世界戦略とメッセージを

- ・非西欧先進国としての利点 言語障壁、非肉食文化、縮み文化の利点
- ・国際協力の戦略を 教育援助(初等識字教育→人口↓) 在来農法・技術援助
- ・多文化主義(マルチカルチュラリズム)の支援を 優秀な人材を吸引

(参考)

中村好寿 2001 『軍事革命(RMA)——<情報>が戦争を変える』中公新書

森村 進 2001 『自由はどこまで可能か——リバタリアニズム入門』講談社現代新書

橋爪大三郎 2001 「「首相参拝」は合憲である」『諸君!』33巻10号